

令和7年度の取組状況(圏域版)

目次

松江圏域	4
1 がん	4
2 脳卒中	5
3 心筋梗塞等の心血管疾患	5
4 糖尿病	6
5 精神疾患	7
6 救急医療	8
7 災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	9
8 感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	9
9 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	10
10 周産期医療	11
11 小児救急を含む小児医療	12
12 在宅医療	12
雲南圏域	14
1 がん	14
2 脳卒中	15
3 心筋梗塞等の心血管疾患	16
4 糖尿病	16
5 精神疾患	17
6 救急医療	18
7 災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	18
8 感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	18
9 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	19
10 周産期医療	19
11 小児救急を含む小児医療	20
12 在宅医療	20
出雲圏域	22
1 がん	22
2 脳卒中	23
3 心筋梗塞等の心血管疾患	24
4 糖尿病	24

5	精神疾患	25
6	救急医療	27
7	災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	28
8	感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	29
9	地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	30
10	周産期医療	30
11	小児救急を含む小児医療	31
12	在宅医療	32
大田圏域		34
1	がん	34
2	脳卒中	37
3	心筋梗塞等の心血管疾患	39
4	糖尿病	42
5	精神疾患	44
6	救急医療	48
7	災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	50
8	感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	51
9	地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	53
10	周産期医療	55
11	小児救急を含む小児医療	56
12	在宅医療	57
浜田圏域		61
1	がん	61
2	脳卒中	62
3	心筋梗塞等の心血管疾患	62
4	糖尿病	63
5	精神疾患	64
6	救急医療	65
7	災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	65
8	感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	66
9	地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	67
10	周産期医療	68
11	小児救急を含む小児医療	68
12	在宅医療	69
益田圏域		71
1	がん	71

2	脳卒中	72
3	心筋梗塞等の心血管疾患	72
4	糖尿病	73
5	精神疾患	73
6	救急医療	74
8	感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	75
9	地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	75
10	周産期医療	76
12	在宅医療	77
隠岐圏域		78
1	がん	78
2	脳卒中	79
3	心筋梗塞等の心血管疾患	79
4	糖尿病	80
5	精神疾患	81
6	救急医療	82
7	災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）	83
8	感染症に対する医療〔感染症予防計画〕	83
9	地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）	84
10	周産期医療	85
11	小児救急を含む小児医療	85
12	在宅医療	86

松江圏域

1 がん

①男女の大腸がん、男性の肺がん、女性の乳がんの罹患率、死亡率の減少に向け、検診受診率や精密検査受診率の向上について重点的に取り組みます。

- ・ 科学的根拠に基づくがん検診を実施できるよう、がんの罹患状況や死亡状況、がん検診チェックリストを活用し、圏域内各市の担当者とともに、がん検診受診率及び精密検査受診率の向上について分析及び検討を行った。
- ・ 罹患率及び死亡率の高い大腸がんについて、各市と連携し、市民、特に働き盛り世代を対象として、事業所内での啓発コーナーの設置や出前講座、研修会等を通じた普及啓発を実施した。

②地域がん診療連携拠点病院や関係者で地域連携クリティカルパスの運用について引き続き評価・運用を検討し、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関との連携体制の強化を図ります。

- ・ がん診療連携拠点病院が開催する「松江地域乳がん地域連携クリティカルパス検討会」において、クリティカルパスの運用状況の確認を行うとともに、現状及び課題について意見交換を実施した。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院において、胃がん及び大腸がんの地域連携クリティカルパスの見直しを行った。

③在宅療養の質の向上及び支援体制の整備・充実を図るため、関係機関の参画による症例検討や情報交換など「緩和ケア検討会」を開催し、多職種連携による在宅医療・介護連携の取組を推進します。

- ・ がん診療連携拠点病院において、市民講座等を開催し、緩和ケアに関する普及啓発を実施した。
- ・ がん診療連携拠点病院において、関係機関を対象とした緩和ケアに関する研修会を開催した。
- ・ 緩和ケア検討会において、緩和ケアに係る情報提供書の運用等について検討するとともに、昨年度実施したヒアリング結果の共有を行った。

2 脳卒中

①基礎疾患として多い高血圧や脂質異常症、糖尿病の予防や生活習慣の改善、心房細動の発症時の早期受診について重点的に啓発します。

- ・ 各市と連携し、イベントや会議、研修等において、減塩や高血圧予防、脳卒中予防(心房細動等)に関するリーフレットを配布した。
- ・ しまね高血圧予防事業(しまね高血圧予防キャンペーン)において、いきいきプラザ島根内にブースを設置し、高血圧予防及び脳卒中予防の周知啓発を行った。

②働き盛り世代については、「松江圏域働きざかりの健康づくり推進連絡会」や県産業保健総合支援センター等と連携し、脳卒中の発症予防、再発予防、治療と仕事の両立支援を推進します。

- ・ 松江圏域働きざかりの健康づくり推進連絡会において、県産業保健総合支援センターや各関係機関と連携し、脳卒中をはじめとする生活習慣病予防や治療と仕事の両立について啓発を行った。
- ・ 各事業所において出前講座を実施し、脳卒中の発症予防について啓発を行った。

③「脳卒中予防検討会」を開催し、急性期・回復期を担う医療機関間の連携を進め、脳卒中手帳の活用や地域連携クリティカルパスの利用促進を図ります。

- ・ 松江圏域脳卒中予防検討会を開催し、急性期を担う医療機関をはじめとした関係機関との間で、現状や課題の共有を行った。
- ・ 急性期から生活期・維持期まで一貫した治療や生活支援を行い、再発予防につなげることを目的として、脳卒中手帳の運用を令和7年10月から開始した。

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①「松江圏域健康長寿しまね推進会議」や「松江圏域働きざかりの健康づくり推進連絡会」等と連携し、食生活、運動等の生活習慣を改善するための健康づくり活動を推進します。また、各保険者等とも連携し、特定健康診査の受診率や、特定保健指導の実施率向上に向けた取組を推進します。

- ・ 松江圏域健康長寿しまね推進会議における各団体や分科会の活動及び活動推進交流会において、健康づくり活動に関する取組を実施した。
- ・ 保険者等と検討の場を設け、特定健康診査受診率や特定保健指導実施率の向上に向けた取組について協議した。

【松江圏域】

②急性期から発症後のリハビリテーションまで一貫した治療や生活支援が提供されるよう、多職種多機関の連携をさらに強化していきます。

- ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護連携の取組を進めている。
- ・ 退院調整や地域での生活支援が円滑に行われるよう、体制づくりの検討を行った。
- ・ ハートコラボ松江や松江市医師会の取組状況を見ながら、心不全対策について、今後の検討に向けた情報収集や状況把握を行っている。

③慢性心不全患者等の緩和ケアを提供できる医療従事者等を育成し、多職種によるチーム医療、チームケアを引き続き推進していきます。

- ・ 高度急性期・急性期病院において、慢性心不全患者等の緩和ケアに対応できる医療従事者の育成に取り組むとともに、多職種によるチーム医療・チームケアの取組を実施している。

4 糖尿病

①しまね健康寿命延伸プロジェクトの取組を地域に波及させ、生活習慣を改善する健康づくり活動を推進します。また、保険者等と連携し、特定健康診査の受診率向上や特定保健指導の実施率向上に向けた取組を支援し、糖尿病の予防(発症予防・早期発見)を推進します。

- ・ しまね健康寿命延伸プロジェクトの取組について、イベントや研修、事業所への出前講座等で紹介し、減塩や運動習慣の定着、プラスワン活動の啓発を行った。
- ・ 保険者等と検討の場を設け、特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率の向上に向けた取組について協議を行った。

②「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」における取組を通じて、境界型・軽症糖尿病を含めた糖尿病の診断・治療・指導が適切に実施されるように体制を整備します。また、糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防対策を継続して推進します。

- ・ 松江地域糖尿病対策会議や安来市糖尿病管理協議会に参画し、糖尿病の予防から診療、指導まで連携して取り組む体制づくりを支援した。
- ・ 糖尿病性腎症重症化予防対策として、健診データから末期腎不全の可能性が高い者(eGFR 減少速度ハイリスク者)を抽出し、専門医への受療勧奨につなぐ取組について検討を行った。
- ・ 松江市では令和 7 年度から事業を開始し、安来市では令和 8 年度からの開始に向けて検討を行った。

5 精神疾患

①精神疾患に対する正しい知識の普及を図るとともに、相談機関を明確にし、身近な地域において早期に支援することができるよう取り組みます。

- ・ 松江圏域健康長寿しまね推進会議心の分科会と連携し、精神疾患に対する正しい知識と相談窓口の周知を行った。

②精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた地域の基盤整備を図るため、圏域や市ごとの協議の場を通して、関係者の重層的な連携を図ります。

- ・ 松江市及び安来市において、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて協議を行う場が設置された。
- ・ 精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議にて現状と課題を共有し、市ごとに開催されている協議の場や各組織における検討につなげた。

③認知症、うつ病、高次脳機能障がい、身体合併症、自死対策、救急医療等も含め総合病院と精神科単科病院が連携して適切な医療を提供できる体制を構築します。

- ・ 自死未遂者対策を検討するため、精神科医療機関及び救急指定病院における自死未遂者の対応状況について実態調査を実施した。
- ・ 実態調査の結果を踏まえ、自死未遂者対策について検討を行う予定とした。
- ・ 平日日中の入院調整方法及び一般診療科から精神科への受診調整方法について、精神科救急医療体制整備松江圏域連絡調整会議において検討を行う予定とした(令和8年1月調整中)。

④地域型及び連携型認知症疾患医療センターや認知症サポート医等の専門医療機関と地域の保健・医療、介護等関係機関が連携し、認知症の専門治療や継続的な相談支援が切れ目なく受けられる体制づくりについて引き続き取り組みます。

- ・ 地域型認知症疾患医療センター1施設、連携型認知症疾患医療センター2施設で課題を共有した。今後は連携を強化して事業を進めていくこととした。

6 救急医療

① 救急車の適正利用や、上手な医療のかかり方等について、住民への啓発を推進します。

- ・ 救急車の適正利用や、上手な医療のかかり方等について、住民への啓発を実施した。

②現状の救急医療体制の維持に努めます。また、二次救急と三次救急の広域的な連携体制を強化し、圏域の救急医療体制の充実を図ります。

- ・ 7カ所の救急告示病院(松江赤十字病院、松江市立病院、松江生協病院、松江記念病院、JCHO玉造病院、安来市立病院、安来第一病院)において救急対応をした。
- ・ 高度急性期医療について、救命救急センターである松江赤十字病院を中心に、松江市立病院、松江生協病院等が連携しつつ、三次救急、高度・特殊な医療に対応した。
- ・ 地域医療構想における個別調整会議として病院長等会議を開催し、病床、救急外来、休日診療を含めた医療提供体制について方針共有を行った。
- ・ 病床逼迫や救急受入制限時に迅速な情報共有を行うため、医療機関・消防・関係団体を対象とした緊急 WEB 会議を開催した。
- ・ 松江市在宅医療・介護連携支援センターと松江市消防本部による協働で作成された「救急車利用チェックシート」や「救急医療情報セット」を活用した。
- ・ 安来市在宅医療支援センターと安来市消防本部、高齢者施設、訪問看護事業所と救急搬送要請時の対応や課題について意見交換を行い、令和5年度に策定した「救急要請時の情報連携シート(高齢者施設向け)」を活用した。
- ・ 安来市消防本部、鳥取大学医学部附属病院高度救命救急センターと安来市立病院、安来第一病院において、令和6年4月から ICT(ラインワークス)を活用し、画像により傷病者情報の共有を実施した。

③「松江・安来地区メディカルコントロール協議会」が中心となって症例検証などを行い、医療機関と消防機関の連携強化、メディカルコントロール体制の充実及び救急業務高度化の推進を図ります。

- ・ 「松江・安来地区メディカルコントロール協議会」にて症例検討などを行い、医療機関と消防機関の連携強化及びメディカルコントロール体制の充実について検討した。

④高度急性期治療後、重度合併症や後遺症のある患者などの適切な医療機関への転院、在宅医療、介護サービスへの移行を円滑に進めます。

- ・ 高度急性期治療後の患者について、病院間で連携しながら、適切な医療機関への転院や在宅医療・介護サービスへの移行が円滑に行われるよう取り組んだ。
- ・ 在宅医療との連携については、「12 在宅医療」に記載の取組と連動して対応した。

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①平時より、災害医療福祉関係機関の情報共有による連携強化を図るため、「松江・安来地域災害保健医療福祉対策会議」を設置し、災害時の速やかな体制整備に努めます。

- ・ EMIS入力及び衛星電話通信訓練に参加し、衛星電話を利用した連絡体制の確認を行うとともに、システム及び衛星電話利用方法の習熟を図った。
- ・ 「松江・安来地域災害保健医療福祉対策会議」を開催し、災害時の体制整備について確認を行った。
- ・ 同会議の委員名簿及び緊急時連絡先一覧を更新し、関係機関間で共有した。
- ・ 令和8年1月6日10時18分頃の島根県東部の地震を受け、関係機関による情報共有及び対応状況の確認を目的として、「松江・安来地域災害保健医療福祉対策会議」を臨時に開催した(令和8年1月28日)。

8 感染症に対する医療[感染症予防計画]

①高齢者等については、重症化防止により医療ひっ迫を回避する観点から、ハイリスク者への対応を継続するとともに、医療機関と高齢者施設の連携をより強化します。

- ・ 感染症の集団発生があった社会福祉施設に対し、その都度、発生状況及び感染対策の実施状況について調査を行い、必要な助言及び支援を実施した。
- ・ 松江及び安来圏域老人福祉施設協議会と感染症対策における現状と課題について意見交換を行った。
- ・ 医療機関と介護関係機関の情報共有及び連携強化を目的として意見交換を行った(令和7年7月9日、11月7日 オンライン開催)。参加機関:管内10病院、松江市医師会、安来市医師会、松江市・安来市老人福祉施設協議会、松江市、安来市

②取り組みにあたっては、感染症法に基づき策定される予防計画や新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき策定される行動計画との整合を図ります。

- ・ 松江市の予防計画に基づき、職員を対象とした研修を実施した(令和7年11月7日:一般職員、令和7年12月22日:保健師)。
- ・ 保健所職員(ぼたんの会を含む)を対象に、健康危機管理対処計画(感染症編)に基づく研修を実施した(令和7年5月27日、令和7年6月13日の計2回)。
- ・ 松江市立病院と連携し、感染症発生時の初動対応(相談受付、受診調整、患者移送、検体輸送、行政検査、所内外の連絡調整)を想定した実働訓練を実施した(令和7年11月25日)。

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①無医地区等を対象として、巡回診療、へき地診療所等への医師派遣、へき地診療所の医師の休暇等における代替医師等の派遣など、地域医療拠点病院が実施する医療活動が充実するよう、運営や設備等に対し、支援します。

- ・ 地域医療拠点病院の指定を受けている5病院により、へき地診療所や無医地区2カ所、準無医地区1カ所へ医師派遣支援を実施した。

②在宅医療も含めた一次医療の維持・確保について、基礎自治体である市を主体とした議論を進めていきます。

- ・ 松江市在宅医療・介護連携支援センターでは、病院、診療所、訪問看護ステーション、介護福祉施設等を対象にヒアリングや調査を実施し、在宅医療提供体制の現状把握と整備を進めた。
- ・ 安来市在宅医療支援センターでは、病院、診療所(歯科も含む)、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護福祉施設等の機能を把握するための調査を実施し、その結果をまとめ関係機関で共有した。

③医師や看護職員、介護職員等の医療介護従事者の確保については、「医師確保計画」や「介護保険事業計画」等に基づく各種事業を活用し、引き続き必要な取組を実施します。

【医師を確保する施策】

- ・ 島根県地域医療支援会議において、圏域代表である安来市長から過疎地域に所在する安来市立病院1名、安来第一病院2名の医師派遣要望を提出した。
- ・ 医学生を対象とする地域医療実習(地域医療拠点病院、へき地診療所での実地体験)を夏季及び春季に実施した(各季2名)。

【看護職員を確保する施策】

- ・ 中高生を対象とした医療現場体験の実施や、奨学金制度の活用による県内進学の実進については、各病院の状況に応じて取り組んだ。
- ・ 島根県看護協会松江支部により、高等学校を対象に希望のあった学校に訪問し「高校生のための進学ガイダンス」を実施した。
- ・ 島根県看護協会により、看護職の人材確保・定着を目的として「松江圏域看護師確保会議」を開催され、医療機関・関係団体とともに現状や課題、今後の取組について意見交換を行った。

10 周産期医療

①産婦人科医師や助産師の確保、院内助産システムや助産師外来の拡充等含め、圏域内の妊産婦が身近な地域で安心して妊娠、出産に臨めるよう周産期医療体制の今後の方向性を検討します。

- ・ 分娩を取り扱う4医療機関を中心に、「分娩の集約化に関する検討会」を松江周産期医療連絡協議会に位置づけて設置し、周産期医療体制の現状及び課題について共有を行った。
- ・ 医師及び助産師を交えて意見交換を行い、将来を見据えた分娩体制の確保に向けた検討を行った。

②助産師が主体的なケアを提供するため、技術力向上が求められていることから、キャリア形成のための研修の充実、活用支援を図ります。

- ・ 助産師を対象とした松江周産期医療連絡協議会「看護連絡会」において、父親への支援の視点も踏まえ、育児や家事の取組状況、県や地域における育児支援事業等について情報共有を行った。
- ・ 父母のメンタルヘルスケア及び育児支援をテーマに、支援者ができることについて意見交換を行った。

③非侵襲性出生前遺伝学的検査(NIPT)等の妊産婦の相談に適切に対応できるよう、医療従事者の技術力向上を図り、人材の育成に努めます。

- ・ 松江圏域周産期医療連絡協議会「全体会」において、松江赤十字病院におけるNIPTの実施状況について報告を行い、検査内容や検査後の対応状況について情報共有を行った。
- ・ 併せて、医療機関間の連携が円滑に行われるよう、紹介時期や手続きの流れについて確認を行った。
- ・ 無痛分娩をテーマとした講演会を開催し、観察のポイントや合併症対策等について知識の共有を行った。

11 小児救急を含む小児医療

①医師会、医療機関、市とともに休日夜間の初期救急体制の確保に努めます。また、かかりつけ医を持つことや休日夜間診療及び在宅当番医の利用について、引き続き啓発を進めます。

- ・ 小児の休日夜間初期救急体制に関する取組については、「6 救急医療」に記載の内容と連動して対応した。

②医療的ケア児等とその家族の支援の充実のため、入院中から在宅への移行に向けた関係機関の連携を進めるとともに、利用できるサービスの拡充等について検討します。

- ・ 医療的なケアが必要な在宅療養児の退院支援や就園支援等について、医療機関や保育園等の関係機関と連携しながら支援を行った。

12 在宅医療

①「保健医療対策会議医療介護連携部会」等の場を活用し、医療機関の連携や役割分担、在宅医療の推進、医療介護連携等について継続的に検討と見直しを行っていきます。

- ・ 「保健医療対策会議医療介護連携部会」で、病床機能や在宅医療・介護の状況を踏まえ、構想区域の実現に向けた意見交換を実施した。
- ・ 地域医療構想における個別調整会議として「松江圏域病病連携推進会議」を開催し、病院間の転院調整や退院支援、在宅移行に向けた連携について情報共有を行った。
- ・ 松江圏域医療機能連携協定に基づき、10 病院ワーキング及び研修会作業部会・啓発作業部会を設置し、協定の内容を具体的な取組として実行する体制を整備した。
- ・ 住民への理解促進を目的として啓発作業部会を設置し、医療のかかり方や在宅医療、病院機能分化等についての啓発内容を整理するとともに、啓発媒体の検討・作成を行った。
- ・ 病院機能や役割に応じた連携のあり方について、各病院が地域に向け啓発を行い、在宅医療提供体制の理解促進に取り組んだ。
- ・ 松江市医師会において、在宅診療の現状把握を目的として、会員医療機関を対象にヒアリング及びアンケート調査を実施した。
- ・ 「松江市病病連携推進会議（松江市在宅医療・介護連携支援センター主催）」を開催し、各病院の退院支援等に関する情報共有を行った。
- ・ 「安来市在宅医療・介護連携推進事業合同連絡会（安来市介護保険課主催）」を開催し、入退院支援や日常の療養支援における医療介護連携等について各機関の取組等の情報共有を行った。

【松江圏域】

②在宅医療等の医療需要増大を見据え、人材確保のみならず、施設も含めた在宅療養の質向上に向け、人材育成及び多職種の円滑な連携を推進します。

- ・ 在宅医療や医療・介護連携に関する連絡会や学習会等については、各病院の方針や体制に応じて実施した。
- ・ 医療・介護連携の推進と多職種の相互理解を目的として、10 病院ワーキングの下に研修会作業部会を設置し、研修会の企画・構成・運営方法について検討を行った。
- ・ 松江圏域医療機能連携協定の取組として、「松江圏域医療・介護連携フォーラム 2025」を 10 病院で連携して開催し、取組や課題、工夫を共有するとともに、関係者間の連携強化を図った。
- ・ 松江市ACP普及啓発推進協議会及び研修会、出前講座(松江市在宅医療・介護連携支援センター事務局)等を開催し、住民や関係者を対象にACP講演会を実施した。
- ・ 松江市では、令和元年11月に作成された『松江市入退院連携ガイドライン』に基づき、医療・介護情報や情報提供様式の更新を行った。
- ・ 安来市では、平成27年7月に作成された『医療と介護の連携マニュアル』について、安来市立病院及び安来地域介護支援専門員協会において情報提供書の更新予定。
- ・ 安来市在宅医療支援センターでは、医療・介護職との意見交換会や医療・介護合同勉強会を開催し、各機関の取組や医療・介護連携に関する情報共有を行った。

③患者の急変時等の往診や訪問看護の体制を確保するため、病院による診療所等の支援体制について検討を進めていきます。

- ・ 在宅療養支援病院及び地域包括ケア病棟・病床を有する病院において、在宅療養患者の療養支援を実施した。
- ・ 松江市在宅医療・介護連携支援センターと松江市消防本部が協働で作成した「救急車利用チェックシート」及び「救急医療情報セット」を活用した。
- ・ 松江市医師会において、令和6年2月から「在宅看取り代診医システム」の試行的運用を開始し、令和7年度から本格実施した。
- ・ 安来市医師会において、「在宅看取りネットワーク」を構築し、診療所医師による当番制対応を実施した。

④入院医療機関と在宅医療に関わる医療機関、訪問看護事業所、介護福祉施設、薬局などが情報連携を図るため、「まめネット在宅ケア支援サービス」の活用を促進します。

- ・ まめネットは病院を中心に活用が進んでおり、徐々にあるが介護分野にも利用が広がってきている。利用率や登録数については引き続き向上の余地があることから、さまざまな機会を通じて活用促進を行った。
- ・ その他、情報共有のため、医療・介護連携を支える手段としてICTを活用した。

雲南圏域

1 がん

①がんの発症に関連のある喫煙、飲酒、食生活、運動等の生活習慣改善に向けた取組を、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき推進します。

- ・ 「がん征圧月間」「がん検診受診率 50%達成に向けた集中キャンペーン月間」に合わせた普及啓発を実施した。【市町、雲南保健所】
- ・ 地域での健康にい～にゃん相談会、町内中学校へのがん教育を実施した。【飯南町、雲南保健所】
- ・ 喫煙に関する啓発チラシを作成・配布した。【雲南圏域健康長寿しまね推進会議、雲南保健所】

②雲南圏域健康長寿しまね推進会議、しまね☆まめなカンパニー等と連携した、働き盛り世代のがん検診及び精密検査の受診勧奨等の取組を推進します。

- ・ 胃内視鏡検査による対策型胃がん検診を実施した。【雲南市】
- ・ 地域自主組織、自治会、商工会等と協働・連携したがん検診の啓発及び受診勧奨を実施した。【市町】
- ・ 受診者へのインセンティブ(い～にゃん PAY ポイント)を付与した【飯南町】
- ・ 「しまね☆まめなカンパニー」登録にむけた啓発チラシを配布した【雲南圏域健康長寿しまね推進会議、雲南保健所】
- ・ 「雲南圏域がん対策検討会」を開催した。【雲南保健所】

③医療機関や介護・福祉施設等において、緩和ケアに携わる人材を育成するため、研修会や事例検討を通じて、緩和ケアを提供する体制の整備・充実を図ります。

- ・ 緩和ケアに係る院内研修会を開催した。【雲南市立病院、平成記念病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院】
- ・ 地域ケア会議を開催した。【市町】
- ・ 松江赤十字病院と共催で緩和ケア地域連携検討会を開催した。【雲南保健所】
- ・ 「雲南圏域緩和ケアネットワーク連絡会」を開催した。【雲南保健所】

2 脳卒中

①脳卒中の発症や再発予防のため、望ましい生活習慣の確立や高血圧等の基礎疾患の管理の重要性について、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき普及啓発等を推進します。

- ・ 「健康長寿しまねの推進」において、あらゆる機会を通じた普及啓発を実施した。【市町、雲南圏域健康長寿しまね推進会議、雲南保健所】
- ・ 「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」での成果をふまえ、「うんなん愛の減塩プロジェクト」事業を推進し、地域ぐるみの減塩活動を展開した。【雲南市、雲南保健所】

②「脳卒中発症者状況調査」を活用した脳卒中对策評価を行い、働き盛り世代の発症及び再発予防の取組を推進します。

- ・ 「脳卒中発症者状況調査」の結果を市町と共有し、働きざかり世代の発症及び再発予防について啓発を実施した。【市町、雲南保健所】

③かかりつけ医や保険者、事業所等と連携して、特定健康診査及び精密検査の受診勧奨に努めます。

- ・ 「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業」に係る特定健診受診率向上に向けた取組を実施した。【奥出雲町】
- ・ かかりつけ医や保険者、事業所等と連携した特定健康診査受診率向上の取組を推進した。【市町】

④急性期治療終了後のリハビリ等の提供が円滑に行われるよう、引き続き圏域外の医療機関との病病連携を推進します。

- ・ 他圏域と合同で会議を開催するなど、医療機関の連携を推進する。【雲南保健所】

⑤雲南地域保健医療対策会議等を通じて、回復期及び維持期・生活期における医療提供体制を充実させるため圏域内医療機関との連携を進めます。

- ・ 「雲南地域保健医療対策会議」等を開催し、圏域医療機関との連携を図った。【雲南保健所】
- ・ 雲南圏域病病連携会議を定期的に行うこととし、相互理解や連携を推進する。【雲南市立病院、平成記念病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院、奥出雲コスモ病院、雲南保健所】

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①心疾患の発症に関連のある喫煙、飲酒、食生活、運動等の生活習慣改善の取組は、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき推進します。

- ・ 「健康長寿しまねの推進」において、あらゆる機会を通じた普及啓発を実施した。【市町、雲南圏域健康長寿しまね推進会議、雲南保健所】
- ・ 「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」での成果を生かし、「うんなん愛の減塩プロジェクト」事業を推進し、地域ぐるみの減塩活動を展開した。【雲南市、雲南保健所】

②かかりつけ医や保険者、事業所等と連携して、特定健康診査及び精密検査の受診勧奨に努めます。

- ・ 「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業」に係る、特定健診受診率向上に向けた取組を実施した。【奥出雲町】
- ・ かかりつけ医や保険者、事業所等と連携し、特定健康診査受診率向上の取組を推進した。【市町】

③急性期医療を担う松江・出雲圏域の医療機関と、合併症予防や再発予防、在宅復帰のための心血管リハビリテーションを実施する医療機関の連携を推進します。

- ・ 他圏域と合同で会議を開催するなど、医療機関の連携を推進する。【雲南保健所】

4 糖尿病

①乳幼児期からの各ライフステージにおける健康課題に応じた取組を「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき、関係機関・団体との連携のもと推進します。

- ・ 「健康長寿しまねの推進」において、あらゆる機会を通じた普及啓発を実施した。【市町、雲南圏域健康長寿しまね推進会議、雲南保健所】
- ・ 生活習慣病予防教室、世界糖尿病デー(World Diabetes Day)での啓発活動、出前講座を開催した。【雲南市立病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院】

②病診連携や地域連携による雲南圏域国保特定健診 CKD フォロー体制の推進を図ります。

- ・ 各市町の検討会等へ参画し、重症化防止の取組を推進した。【雲南保健所】
- ・ 「雲南市糖尿病・CKD対策検討会」を開催し、フォロー体制の運用と専門医併診、治療中断防止対策等について協議した。【雲南市】
- ・ 飯南病院と連携し「糖尿病療養支援チーム」の取組を実施した。【飯南町、飯南町立飯

【雲南圏域】

南病院】

- ・ 糖尿病療養指導士を中心とした「糖尿病対策チーム」で、療養支援や重症化予防対策等の検討、生活習慣病予防教室の開催を行った。【町立奥出雲病院】
- ・ 歯と口腔の健康づくりによる糖尿病重症化等の予防を図った。【雲南歯科医師会】
- ・ 糖尿病の食事療法について、会員を対象に研修会を開催した。【雲南地区栄養士会】

③特定健康診査及び精密検査の受診率向上を目指した取組を推進します。

- ・ 「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業」に係る特定健診受診率向上に向けた取組を実施した。【奥出雲町】
- ・ かかりつけ医や保険者、事業所等と連携した、特定健康診査受診率向上の取組を推進した。【市町】

④「雲南圏域糖尿病対策会議」等において、人工透析に係る医療提供体制について関係者と情報共有を図り、必要な支援について検討します。

- ・ 「雲南市糖尿病・CKD対策検討会」を実施した。【雲南市】
- ・ 雲南圏域糖尿病対策連絡会を実施した。【雲南保健所】

5 精神疾患

①精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた地域の基盤整備を図るため、圏域や市町ごとの協議の場を通して、関係者の重層的な連携を図ります。

- ・ 雲南圏域精神障がい者地域生活移行・地域定着圏域会議を開催した。【雲南保健所】
- ・ 国のモデル事業の精神障害にも対応した、地域包括ケアシステムの構築支援事業を実施し、飯南町は協議体を設置した。奥出雲町では、今年度から事業を実施し、協議体の設置に向けて検討した。【奥出雲町、飯南町、雲南保健所】

②長期入院者の退院支援、地域定着の推進を図るため、地域や家族の理解の促進、交通手段や住まいの確保等サービス基盤の整備、ピアサポーターの効果的な活用、相談支援体制の充実を図ります。

- ・ 「雲南圏域障がい者総合支援協議会」を開催した。【各市町】
- ・ 各種相談事業、出前講座、普及啓発を実施した。【市町、雲南保健所】
- ・ 保健所の定期専門相談・巡回相談、その他関係機関の外部カウンセリング支援の取組等への医師派遣等の協力を実施した。【奥出雲コスモ病院】
- ・ 「ピアサポーター活用事業」による、ピアサポーターのこなんホスピタル及びこころの医療センターへの病院訪問を実施した。【受託事業所:そよかぜ館】

【雲南圏域】

③ゲートキーパーの養成及び関係者の資質向上を図り、市町と連携して、うつ病の早期発見・早期対応等の取組を推進します。

- ・ 「ゲートキーパー養成・フォローアップ研修会」を実施した。【市町、雲南保健所】

6 救急医療

①救急連絡会の場を活用してドクターヘリの効果的な運航について検討します。

- ・ 圏域の第二次救急医療機関が全て参加し、救急連絡会議を開催した。【雲南消防本部、医療機関、保健所】

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①福祉分野を含めた連携体制を構築し、避難による健康状態の悪化を防止します。

- ・ 「雲南地域災害保健医療福祉対策会議」を開催し情報共有を図った。【雲南保健所】
- ・ 地域ケア会議で、介護福祉事業所や地域包括支援センターとの課題共有、研修を実施した。【飯南町】

②地域医療連携推進法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク内での相互支援の仕組みづくりを推進します。

- ・ 災害時、参加医療機関で相互協力の必要性について共有した。
- ・ 今後、災害拠点病院と災害協力病院との役割分担や、参加医療機関相互の連携について協議を進めていく。【医療連携推進法人】

8 感染症に対する医療[感染症予防計画]

①新型コロナウイルス感染症での対応を念頭に、医療機関その他関係者と連携し、感染症医療提供体制の確保に取り組みます。

- ・ 新興感染症発生時の医療提供体制の確保のため、感染症法に基づく医療措置協定の締結を推進した。【病院、診療所、薬局、訪問看護】
- ・ 高齢者福祉施設を対象に「雲南圏域感染症対策研修会」を開催した。【雲南市立病院、雲南保健所】

【雲南圏域】

②令和5年度中の改定を予定している県の感染症予防計画との整合を図るため、同計画の改定作業の中で雲南圏域における課題や改善策等について関係機関と意見交換を行います。

- ・ 「感染症対策向上加算連携医療機関合同カンファレンス」の中で意見交換を実施した。【雲南医師会、雲南市立病院、雲南保健所】

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①限られた医療資源(人材、設備等)を効率的、効果的に活用できるよう、地域医療連携推進法人、医療連携推進コーディネーターとの連携を図り、適切な医療を提供できる体制の充実・強化を目指します。

- ・ 主治医不在時に病院医師が往診・看取りを代行するサービス「雲南市在宅医お留守番サービス」を運用開始した。【雲南市立病院、雲南市】
- ・ 医療従事者の確保が困難な施設に対し、参加法人間で職員派遣を行った。【医療連携推進法人】

②診療所減少への対応やかかりつけ医機能の強化等のために、総合的な診療能力を有し、プライマリ・ケアを実践できる病院に勤務する総合診療医の確保を進めていきます。

- ・ 「地域医療交流会」を開催した。【医療連携推進法人、雲南保健所】
- ・ 「総合診療専門研修プログラム」を実施した。【雲南市立病院】

10 周産期医療

①医療機関での産婦人科と外科、麻酔科、小児科、精神科など他診療科の連携を進めるとともに、圏域内の関係機関との連携体制を構築し、安心して子どもを産み育てることのできる環境整備を推進します。

- ・ 産科常勤医師1名体制で3次医療機関と連携し周産期医療を提供した。【雲南市立病院】
- ・ 助産師外来を開設した。【雲南市立病院、町立奥出雲病院】
- ・ 「子ども家庭センター」を設置した。【市町】
- ・ 産婦人科と小児科、精神科、圏域外の医療機関との連携体制の構築等について、「圏域母子保健推進協議会」で検討した。【雲南保健所】
- ・ 医療機関等と連携し、産前産後サポート事業、産後ケア事業を実施した。【市町】

【雲南圏域】

②「母体・新生児搬送連絡票」の活用等による迅速な情報共有により医療機関との連携を推進します。

- ・ 「母体・新生児搬送連絡票」等の活用により、病院間の連携が行われた。

11 小児救急を含む小児医療

① 入院に対応できる小児医療体制の維持に努めます。

- ・ 医師 2 名体制を継続して対応した【雲南市立病院】
- ・ 引き続き小児医療体制を維持するため、人材確保に努める。

12 在宅医療

①「雲南圏域における入退院連携マニュアル」や介護支援専門員協会作成の「医療介護連携シート」の活用を推進し、引き続き関係者で在宅医療推進に係る議論を行います。

- ・ 『入退院連携マニュアル』、『医療介護連携シート』の活用による連携体制構築を図った。【雲南地域医療介護連携調整検討委員会】
- ・ 地域ケア会議や研修会・意見交換会を開催した。【市町、病院】
- ・ 「雲南在宅医療意見交換会」を開催した。【雲南医師会】
- ・ 在宅歯科医療推進対策事業雲南地域包括口腔ケア会議を開催した。【雲南歯科医師会】

②まめネット等の ICT を活用した効率的な医療提供体制の構築に向け、引き続き関係者と議論を行います。

- ・ 「まめネット」を活用した巡回診療(波多地区)を実施した。【雲南市立病院】
- ・ 「まめネット」を活用して病病連携を推進した。【雲南市立病院、平成記念病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院】
- ・ 多職種の効率的な情報連携をテーマに「雲南地域多職種連携研修会」を開催した。【雲南地域医療介護連携調整検討委員会】
- ・ ICT ツールを活用した医療介護連携体制の構築について継続的に議論・検討を行った。【雲南市、奥出雲町】

【雲南圏域】

- ③行政、医療機関等が連携して、住民向け、医療従事者向け等、対象者に合わせた ACP の普及・啓発に引き続き取り組みます。

医療介護従事者向け

- ・ 「ACP・看取りに関する研修会・意見交換会」を開催した。【市町、雲南市立病院、平成記念病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院、奥出雲コスモ病院】

住民向け

- ・ ACP・看取りに関するシンポジウム等を開催した。【雲南市立病院、町立奥出雲病院、飯南町】
- ・ 『エンディングノート』等の活用を推進した。【市町、医療介護機関】

- ④市町が中心となって在宅医療提供体制が確保されるよう、保健医療対策会議医療・介護連携部会において、慢性期医療、在宅医療及び介護サービスの提供体制について継続的に検討し、地域包括ケアの推進を図ります。

- ・ 医療連携推進コーディネーターによる取り組みを推進した。【雲南市立病院】
- ・ 主治医不在時に病院医師が往診・看取りを代行するサービス「雲南市在宅医お留守番サービス」を運用開始した。【雲南市立病院、雲南市】
- ・ 「雲南地域保健医療対策会議 医療・介護連携部会」を開催し、圏域医療介護機関との連携を図った。【雲南保健所】

出雲圏域

1 がん

①生活習慣の改善や禁煙支援、がん検診受診について、がん検診啓発サポーターや関係団体と協力した啓発を進めます。

- ・ 健康長寿しまね推進会議各分科会活動として、たばこ、運動、減塩、野菜摂取等にかかる啓発を実施した(圏域重点テーマ～圏域で取り組む6つの柱～の一つに『がんによる死亡を減らそう』を掲げている)。
- ・ たばこの啓発は、「最初の1本を吸わせない」よう、今年度から重点的な対象として中学生を選定し、学校と連携した啓発を開始した。
- ・ イベントや商業施設、JA等でパネル展示やリーフレット配布を通じた啓発を実施した。
- ・ 「働く人の健康づくりセミナー」で参加事業所へがん検診の啓発を実施した(R8.1.20)。

②若い世代の女性や働き盛り世代を中心に、がん検診受診率向上に向けた環境づくりや普及啓発、受診勧奨に行政や職域関係者等と協働して取り組みます。

- ・ 出雲市では年2回の休日セットがん検診(胃・肺・乳・大腸)に今年度から子宮頸がん検診(年1回のみ)を追加、胃内視鏡検診の対象年齢拡大(50～69歳)、また40～69歳女性限定で出雲市乳がん検診を受診すると、「いずも縁結びPAY」を活用した行政ポイントプレゼント(500円分)等受診しやすい環境整備を実施した。
- ・ 出雲商工会議所報、JA いずも広報誌への記事掲載、地域・職域連携推進事業等と連携した普及啓発を実施した。

③子宮頸がんについてはその原因となるHPVの感染を防ぐワクチンが効果的であり、接種率向上に向けて情報提供を行います。

- ・ 出雲市ではR7年3月末までに1回以上接種した対象者に、残りの接種を公費で対応するよう期間延長し、小学6年生、中学1年生への個別通知も実施した。

④診断時からの緩和ケアや円滑な治療の推進に向けて、病院や診療所、訪問看護ステーションに加え、歯科診療所、がん専門・認定看護師や専門薬剤師等多職種・多機関による連携を強化します。

- ・ 在宅療養支援機関も含めた更なる連携強化や体制整備の推進に向け、在宅診療を担う診療所6カ所への聞き取り、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所へアンケート調査を実施し、実態把握に取り組んだ(R7.9月～12月)。
- ・ PCAポンプの台数不足等運用にかかる課題に対し、がん診療連携拠点病院及び拠

【出雲圏域】

点薬局への聞き取りを行い、その結果を踏まえて相互理解を図る情報共有に取り組んだ。

- ・ 圏域内の緩和ケア推進体制の課題共有や方向性の検討を目的に、緩和ケア検討会を開催した(R8.3.4)。
- ・ 多職種、多機関による連携強化や学習の場として「緩和ケア地域連携カンファレンス」を月1回開催した。

2 脳卒中

①出雲圏域健康長寿しまね推進会議の構成団体等と連携しながら、減塩や生活習慣等の改善に向けた普及啓発及び保健指導を推進します。

- ・ 健康長寿しまね推進会議各分科会活動として、たばこ、運動、減塩、野菜摂取等にかかる啓発を実施した(圏域重点テーマ～圏域で取り組む6つの柱～の一つに『高血圧を予防しよう、適切に管理しよう』を掲げている)。
- ・ しまね高血圧予防キャンペーン、出雲ドームフェスティバルや文化祭等地域のイベント、ゆめタウンなど商業施設等での啓発を実施した。
- ・ 出雲商工会議所報、JA いずも広報誌を用い、働き盛り世代に対する普及啓発を実施した。
- ・ 出雲市では健診受診者でハイリスク者への個別フォローにおいて、受診勧奨通知や状況確認アンケート、積極的な『すこやかライフ健康相談』への勧奨等
- ・ などを通じた対応を行った。
- ・ 関係団体では地区健康フェスティバルでの健康相談や血圧測定等による健康管理支援、減塩の啓発や生活指導等を実施した。

②出雲圏域脳卒中予防対策検討会議の場を活用し、脳卒中発症状況調査等のデータ分析を踏まえた協議を行い、地域全体で初発及び再発予防の取組を強化します。

- ・ 圏域検討会を開催し、データ分析を踏まえた発症及び再発予防に向けた取組について検討した(R7.11.11)。
- ・ 出雲圏域脳卒中再発予防事業について、昨年度医療機関訪問による再周知を行ったことにより今年度の紹介件数は増加傾向にある。今後、関係機関、出雲市と連携し、患者に対する再発予防に繋がる体制を構築予定。
- ・ 脳卒中に関する指導・啓発媒体作成ワーキングを開催し、脳卒中発症者、ハイリスク者を対象とした圏域共通の指導・啓発媒体を作成中(年度内完成予定)。

【出雲圏域】

③高血圧などの基礎疾患の適正管理の重要性について理解を図るとともに、初期症状出現時の早期受診についても普及啓発を推進します。

- ・ 2-①再掲

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①関係団体と連携しながら、生活習慣改善等についてあらゆる機会を捉えた普及啓発を推進します。

- ・ 2-①再掲

②心不全の適正管理については、セルフケアの推進に向け、認定看護師を中心に多職種による支援や地域連携を強化します。

- ・ 島根県脳卒中・心臓病等総合支援センター(R7.11 月設置)や出雲地区心不全連携研究会と連携を図り、圏域の循環器病対策推進の体制を検討する必要がある。

4 糖尿病

①関係機関・団体等と連携し、糖尿病や CKD に関する正しい知識の普及や生活習慣改善を推進し、健診の受診率向上にも継続的に取り組みます。

- ・ 関係団体では地区健康フェスティバルで健康相談や血圧測定等による健康管理支援、減塩の啓発や生活指導等を実施した(圏域健康長寿しまね推進会議、重点テーマ～圏域で取り組む6つの柱～の一つに『糖尿病・CKD の予防、重症化を防止しよう』を掲げている)。
- ・ 出雲商工会議所報、JA いずも広報誌を用い、働き盛り世代に対する普及啓発を実施した。
- ・ 出雲市では休日健診や対象者への受診勧奨等を通じた受診機会確保や周知を行うとともに、地区別健康づくり活動での重点取組とした。併せて、糖尿病や腎症ハイリスク者への保健指導を実施した。

②糖尿病性腎症等の重症化予防には、定期受診や検査の継続が重要であり、特に男性の働き盛り世代を中心とした治療中断対策に引き続き取り組みます。

- ・ 出雲市では治療中断の可能性のある人への受診勧奨、国保特定健診受診者を対象とした糖尿病性腎症・CKD 重症化予防の取組を実施。保健所においても、出雲圏域糖尿病予防対策検討会での意見交換や国保事業を通じた支援、啓発チラシのホー

【出雲圏域】

ムページ掲載等を実施した。

- ・ 出雲圏域糖尿病予防対策検討会において腎臓専門医を含め、糖尿病性腎症やCKDの重症化予防についての検討、市の健診や医療との連携体制の構築について情報共有・意見交換を行った(R8.1.13)。

③糖尿病予防対策検討会を通じて現在構築できている医科歯科薬科の医療連携等のシステムを継続できるよう推進します。

- ・ 出雲圏域糖尿病予防対策検討会で、薬局を訪れた糖尿病治療薬服薬者への歯科受診勧奨の推進にかかる連携状況について情報共有・意見交換を行った(R8.1.13)。

5 精神疾患

①出雲地域精神保健福祉協議会を中心に、幅広い機関や団体とのネットワークの構築を進め、精神障がいの有無や程度に関わらず安心して自分らしい暮らしができる地域づくりを目指します。

- ・ 出雲地域精神保健福祉協議会を開催し、島根県保健医療計画に基づく重点施策やR7年度事業の方向性について検討した(R7.6.12)。
- ・ ピアサポーター活動に関し、ピアミーティングやピアだより発行への支援を行うとともに、ピアサポーターの資質向上や他圏域ピアサポーターとの交流を図るため、雲南・大田を含めた3圏域合同でフォローアップ研修を開催した(R7.12.3)。併せて、効果的な活動に向けて医療機関と意見交換を実施した(R8.2.12)。
- ・ ピアサポーター活動の普及啓発として病院文化祭へ共同でブース出展し、ピアサポーターの活動を広く周知するための活動紹介DVDを作製予定(R8.3)。
- ・ 家族支援として「出雲地区精神障がい者家族交流会」を開催した(R7.11.21)。
- ・ ギャンブル問題に関する自助グループ「GA 松江グループ」が、新たに出雲地区でのミーティングを開催するにあたり、会場確保の支援や周知等に協力した。
- ・ 出雲市が開催する「出雲市障がい者施策推進協議会専門部会」へ参画し、精神疾患をもつ高齢者が安心して地域で生活するための体制づくりに協働して取り組んだ。
- ・ 各世代に対応したこころの健康づくりを推進するため、こころの分科会を年2回開催し、心の健康出前講座や文化祭等地域のイベントなどの場を通じて普及啓発を実施した。
- ・ 定期の専門相談として心の健康相談(子どもの相談日含む)及びお酒の困りごと相談を開催し、早期の相談体制確保に努めている。併せて、個別支援を通じて関係機関と連携し、病気や障がいがあっても安心して生活できる支援を行った。

【出雲圏域】

②行政・医療機関・相談支援事業者・ピアサポーター等による協議の場を活用し、地域の特性や社会資源を生かした地域移行・地域定着支援に取り組みます。

- ・ 住民啓発、家族支援、高齢者の退院支援、施設等への理解促進や関係機関の連携した取組みを検討するため、「医療の連携と在宅支援に関する部会(精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議)」を開催した(R7.9.11)。
- ・ 関係機関等の職員が福祉施設や病院見学を通じて社会資源を知り、意見交換を行う機会として、地域と医療の交流実習を実施。医療機関、訪問看護ステーション、障がい者施設、作業所等で、地域関係機関(相談支援専門員、介護支援専門員他)、医療機関、行政職員が実習を行った(R7.11月)。
- ・ 地域移行・地域定着の推進を目指し、ストレングスに着目した関わりをテーマに医療機関向け研修会を実施した(R8.1.28)。
- ・ 出雲圏域精神保健包括支援会議を年 6 回開催。対応に苦慮する事例について多機関・多職種での事例検討会を 5 回開催し(奇数月開催)、精神疾患をもつ高齢者の地域移行支援における関係機関の連携をテーマに研修会を 1 回開催した(R7.11.20)。

③生活行動の安定のためには、クライシスプランの作成等を通じて患者とともに考える過程が重要であり、医療と連携した取組を進めます。

- ・ 措置入院患者を対象に医療機関と連携し、退院後支援ガイドラインに基づいた退院支援を実施。入院中から患者との面接を重ね、支援計画、クライシスプランを患者、医療機関とともに作成した。

④精神科救急医療体制整備圏域会議等のネットワークを活用し、精神疾患等による自死のハイリスク者や未遂者への支援体制の構築を図ります。

- ・ 精神科医療体制や自死未遂者対策について検討するため、精神科救急医療体制整備出雲圏域連絡調整会議を開催した(R7.7.31)。
- ・ 精神科を標榜する診療所を対象に調査票を用いて「自死未遂者の実態調査」を実施(R7.8~9月)。R6 年度実施した病院等における自死未遂者の実態調査結果とあわせ、自死未遂者の再企図を防ぐための支援体制について検討した。

⑤認知症を受け入れる地域、認知症になっても笑顔で暮らせる地域を目指し、各種団体との連携を推進していきます。

- ・ 「出雲市認知症高齢者支援強化検討会」へ参画し、現状と課題の共有、必要な支援を検討した。
- ・ 出雲認知症サポート医連絡会に参画し、情報共有や今後の取組を検討した(年 3 回)。
- ・ 認知症に関する相談対応及び出雲市高齢者福祉課、あんしんセンター等関係機関と連携した個別支援を行った。

【出雲圏域】

- ・ 平成 28 年度から島根県薬剤師会出雲支部と共催で開催した「薬剤師等認知症対応力向上研修会」の評価のため、「薬剤師の認知症ケアに関するアンケート」を実施し、薬剤師会出雲支部、出雲市と今後の方向性について意見交換会を開催した (R7.12.22)。
- ・ 認知症の人と家族の会島根県支部の「世界アルツハイマー月間街頭キャンペーン」に参加しチラシ配布、商業施設において展示による啓発を実施した。
- ・ 認知症サポート医会主催の「出雲認知症研修会(年 3 回)」、出雲市主催の「認知症ケアフォーラム」等、多機関・多職種による啓発や連携が行われており、啓発の取り組みがさらに広がるよう、県が推進する VR 認知症体験会や認知症啓発マンガの媒体の紹介や活用支援に取り組んだ。

6 救急医療

①出雲休日・夜間診療所において継続的に初期救急が担えるよう、出雲医師会や島根大学医学部附属病院と連携を図りつつ、支援体制を構築します。

- ・ 冬期の感染症流行時期を中心に、初期救急の受け皿である出雲休日・夜間診療所の利用状況を踏まえた対応について、出雲医師会及び出雲市と共有・検討し、三次救急医療機関へも情報発信した。

②救急告示病院や消防本部との情報共有を行い、救急医療体制の維持や高次救急医療から患者の状態に応じた円滑な受入体制の構築を図ります。併せて、上手な医療のかかり方等について、住民への啓発を推進します。

- ・ 救急医療体制の効果的な転院搬送について、「圏域内病院における対応(R6 年度作成)」を更新するとともに、雲南・大田圏域を含む3圏域合同の医療連携会議を開催し、隣接圏域を含めた体制整備に努めた(R7.11.26)。
- ・ 「医療のかかり方」をテーマにした住民向け啓発チラシを作成し、今後関係機関へ配布予定。また、出雲市広報 12 月号に同様の内容を掲載し、普及啓発を行った。
- ・ インフルエンザ等感染症流行に伴う救急受診の増加を踏まえ、出雲医師会会員へ文書発出による協力依頼を行い、圏域内病院・出雲医師会・消防本部・出雲市・保健所で Web 会議を開催した(R8.1.8)。

③身寄りのない高齢者等への対応について、出雲圏域病病連携会議で作成されたガイドラインを参考に、適時情報更新しながら連携強化を図ります。

- ・ 出雲圏域病病連携会議を中心に、R5 年度作成されたガイドラインについて介護支援専門員等関係者に周知及び更新を行うとともに、特養との意見交換会などを通じた

【出雲圏域】

対応の標準化や連携の拡大に取り組んだ。

- ・ 出雲圏域病病連携会議及び出雲市介護支援専門員協会共催で「身寄りのない高齢者支援研修会」を開催した(R8.1.29)。
- ・ 出雲市においては、特に夜間・休日の救急受診後の移動手段に苦慮するとの意見を踏まえ、R7 年度市内のタクシー事業者を対象に時間外対応可否を含む実態調査を実施した。

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①休日・夜間を含め、災害時に関係機関が迅速かつ確実に情報共有ができる体制整備に取り組むとともに、訓練等を通じた実務的な役割の共有を図ります。

- ・ 災害初動対応及び情報連携の方法について、「R7 年度出雲地域災害保健医療福祉対策会議」で毎年各機関・団体の緊急時連絡先を確認、共有した(R7.6.9)。
- ・ 医療政策課主催の「EMIS 入力訓練・衛星電話通信訓練」に参画し、管内参加機関との通信状況を確認、未入力機関への状況把握も行った。また、全県的な一斉訓練時にも訓練時に未入力であった機関へ個別に入力を促した。

②人工呼吸器等医療的処置を伴う対象者の安全安心な避難行動に向け、平時より保健医療福祉等関係機関での情報共有や外出訓練等に取り組めます。併せて、出雲市と連携し「避難行動要支援者個別避難計画」の作成を地域全体で進めます。

- ・ 「在宅人工呼吸器使用患者」が安全に避難できるよう、R6 年度行った実態把握で同意が得られた 23 名に関して、個別の受入調整を継続した。また、医療依存度の高い対象者の個別性に応じた避難行動に関し、出雲市との連携強化に向けて意見交換を複数回実施した。
- ・ 人工呼吸器装着など重症神経難病患者や医療的ケア必要児に対し、「個別避難計画」を策定し、関係機関との情報共有や年 1 回の見直し・更新を行った。併せて、介護支援専門員や訪問看護ステーションが中心となり、外出支援を通じた移動訓練及び停電想定の避難訓練などを実施した。
- ・ 災害時に保健所が主に安否確認を行う「災害時要支援者リスト」、「在宅障がい者のための非常用電源確保事業登録者」について出雲市と共有した(年 1 回)。

③島根大学医学部附属病院においては、災害拠点病院として、「災害派遣精神医療チーム」にも対応可能な体制が取られつつあり、支援体制の充実が進められています。

- ・ 必要時、島根大学医学部附属病院等災害拠点病院と連携を図り、支援体制を確保する。

8 感染症に対する医療〔感染症予防計画〕

①県の方針を踏まえつつ、医師会及び各病院と意見交換する場をもち、医療提供体制の確保に取り組みます。

- ・ 感染症対策向上加算連携医療機関合同カンファレンスにて医療機関と定期的に意見交換を実施した。
- ・ 島根県立中央病院主催の新興感染症発生等を想定した訓練において、保健所から医療機関に対し感染症法に基づく届出に係る説明及び質疑対応を行った。(R7.12月)
- ・ 出雲圏域病病連携会議にて関係機関(各病院、出雲市・保健所)で救急等入院医療のひっ迫に備えた対応について意見交換し、住民向けに作成した啓発リーフレットの周知及び活用にかかる意見聴取を行った(R7.12月)。
- ・ インフルエンザ等感染症の流行により出雲圏域の救急医療や病床のひっ迫が懸念されることから、関係機関(医師会、各病院、消防、出雲市、保健所)で Web 会議を開催し、医療提供体制の確保に向けた情報共有を実施した。(R8.1.8)

②特に感染に伴う重症化やクラスターの発生リスクが高い高齢者施設等と、入院受入医療機関との入退院連携の推進を図ります。

- ・ 高齢者施設から感染症にかかる報告・相談を受けた際には、医療機関との連携体制の確保及び適切な施設内療養に関する啓発を行った。併せて、「しまね COMMONS (施設における感染症対策)」(e ラーニングシステム)の紹介等、感染症対策に関する情報発信を実施した。

③入院受入医療機関の病床ひっ迫を防ぐため、宿泊療養の円滑な実施について関係機関と連携を図ります。併せて、安心して自宅療養ができるよう、訪問診療や訪問看護を行う関係機関と連携を図り、療養環境の整備に取り組みます。

- ・ 新興感染症の発生及びまん延時に、入院受入医療機関の病床ひっ迫を防ぐため、県は宿泊施設等と「宿泊施設確保措置協定」を、病院、診療所、薬局及び訪問看護事業所とは「医療措置協定」を締結し、医療・療養環境の整備に取り組んでいる。引き続き、圏域においても関係機関と連携を図る。

④新興感染症の発生及びまん延時には、保健所は健康危機管理の拠点として中核的な役割を果たせるよう、感染状況に応じて速やかに必要な人員確保等の体制整備を図ります。

- ・ 平時からの備えとして、人員確保の体制整備を図るとともに、患者搬送車両、医療物資及び個人防護具等の感染対策に関する必要物品の点検・確認を実施した。
- ・ 養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生時の対応及び鳥インフルエンザ疑い

【出雲圏域】

患者(ヒトの要観察例)発生時の対応(受診調整、患者移送、検体輸送、行政検査、積極的疫学調査等)について、市職員を含む所内研修を実施した(R7.10月)。

- ・ 感染症のまん延等の健康危機が発生した場合に備え、保健所等の業務を支援するための IHEAT(Infectious disease Health Emergency Assistance Team) 要員の確保を行い、IHEAT 要員は資質向上のための研修を受講した。
- ・ 新型インフルエンザ等感染症疑い患者の発生を想定した米子空港検疫措置総合訓練に参加し、出雲空港発着の国際チャーター便における検疫措置の支援に備えた。(R7.11月)

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①医師・歯科医師、看護師、介護職等の人員確保や定着については、「医師確保計画」や「介護保険事業計画」等関連計画と連動し、対策を検討します。

- ・ 外来医師不足地域の4地区(平田、湖陵、多伎、佐田)を中心に外来受療動向の分析を行い、出雲医師会及び出雲市と継続的に情報共有した。併せて、地区毎に開業医と意見交換する場を設け、各地区特有及び共通課題について整理し、出雲医師会理事会・医療介護連携専門部会等で今後の方向性について具体的な検討を行った(R8.2.5)。

10 周産期医療

①地域で安心して出産、育児ができるよう、周産期保健医療検討会を通じて、医療機能分担や関係機関の更なる連携強化を図ります。

- ・ R7年度は「周産期保健医療検討会」は未開催だが「出雲圏域周産期看護連絡会」を開催し、周産期情報ファイルを活用した情報連携や現状について意見交換を行い、連携強化に向けた情報共有を行った。
- ・ 島根大学医学部附属病院および島根県立中央病院が主催で「周産期症例検討会」が2回開催されており、症例を通じた搬送基準や緊急性の判断等を共有した。

②分娩可能施設の維持に向け、医師の負担軽減につながるよう助産師とのタスクシフトを進めます。

- ・ 必要時周産期保健医療検討会および周産期看護連絡会を開催し、検討を行う方向性。

【出雲圏域】

③妊娠期からの切れ目ない支援に向け、相談支援の充実や多職種による支援ネットワーク構築に向けた取組を進めます。

- ・ R7年度は「周産期保健医療検討会」は未開催だが「出雲圏域周産期看護連絡会」を開催し、周産期情報ファイルを活用した情報連携や現状について意見交換を行い、連携強化に向けた情報共有を行った。
- ・ 出雲市では「出雲市母子健康包括支援センター(きずな)」を中心に支援に取り組み、保健所もきずな会議や研修会に参加し情報共有。併せて妊産婦への質問票及びアセスメント票の活用や退院後訪問等を通じ、支援を要する妊婦褥婦に対し産前から支援体制の構築を図っている。

④地域で療育・療養の支援が可能な医療機関や訪問看護ステーション等が拡充するよう、個別事例を通じた体制整備を図ります。

- ・ 対応可能な機関の拡充に向け、親子交流会や個別事例を通じた働きかけを実施した。

11 小児救急を含む小児医療

①休日・夜間診療所における小児科医の確保に向け、島根大学医学部附属病院等の協力を得ながら支援体制を検討します。

- ・ 冬期の感染症流行時期を中心に、初期救急の受け皿である出雲休日・夜間診療所の利用状況を踏まえた対応について、出雲医師会及び出雲市と共有・検討し、三次救急医療機関へも情報発信した【6-①再掲】。

②医療的ケアを必要とする児への支援について、在宅生活支援フロー図に基づき医療・保健・福祉・教育関係者と連携を図り、レスパイト入院を含む支援体制の構築について検討を進めます。

- ・ 在宅療養支援ファイルの作成等個別支援を通じて関係機関と連携を深めるとともに、「出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児生活支援検討会」を開催し、支援体制の充実に向けた検討を行った(R7.12.16)。

12 在宅医療

①サービス付き高齢者向け住宅等も含め、医療依存度や介護度の高い方への訪問診療や往診等の需要が増大する中、周辺地区においても支援体制が維持できるよう ICT の利活用や、多機関・多職種での連携体制の構築を推進します。

- ・ 外来医師不足地域の 4 地区（平田、湖陵、多伎、佐田）を中心に外来受療動向の分析を行い、出雲医師会及び出雲市と継続的に情報共有した。併せて、地区毎に開業医と意見交換する場を設け、各地区特有及び共通課題について整理し、出雲医師会理事會・医療介護連携専門部会等で今後の方向性について具体的な検討を行う予定（R8.2.5）。
- ・ 地域医療支援病院や在宅療養支援病院を中心に地域包括ケアシステムの構築に向け、切れ目のない入退院連携や在宅医療が提供され、「まめネット」の活用とともに医療介護関係者間の連携を支援するためのネットワークとして R6.2 月から「ルピナスネット出雲」が運用されている。
- ・ 出雲市では人材の有効活用に向け、高齢者への介護予防ケアマネジメントにかかる毎月のモニタリング電話を AI に置き換えたサービス提供、地域偏在を考慮した ICT を用いた遠隔医療等、実証事業に取り組んでいる。
- ・ 出雲市では R6 年度から条件不利地域における訪問診療・訪問看護に加えて、訪問サービス事業者（訪問介護、訪問リハ、訪問入浴介助）へ補助制度を創設している。

②医療に加えて、看護や介護サービスを含めた総合的な在宅支援のニーズも高まっており、特定行為研修修了者や訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護など多職種によるネットワークを推進します。

- ・ 医療介護連携専門部会を 3 回開催し、医療機能分担を確認するとともに、医療と介護の連携強化に向けた意見交換を行った（R7.5 月、9 月、R8.2.19）。
- ・ 出雲市では「在宅医療介護連携推進会議」を年 2 回開催し、在宅医療・介護連携の推進について関係機関・団体と意見交換を実施（R7.7 月、R8.2.3）。併せて、介護支援専門員と多職種の連携推進に向け、個別ケア会議を年数回開催。また、医療介護関係者からの相談窓口として、「在宅医療介護連携支援センター」を設置しており、医療介護連携推進員による支援調整を実施した（R6:134 件）。
- ・ 多職種連携や相互理解の推進に向け、出雲医師会が中心の「在宅医療懇話会」が年 6 回開催され、他、薬剤師会や介護支援専門員協会、看護協会、訪問看護ステーション協会等各団体に研修会や交流会、定例会を開催し情報交換が図られている。
- ・ 栄養士会、薬剤師会、歯科医師会等の各会員が、療養の場に応じた個別指導や介護予防を展開した。

【出雲圏域】

③看取りや緩和ケアをテーマに、慢性期病院や介護専門職等を対象とした研修会を開催し、心理的不安を解消しつつ役割に応じたケアが提供できるよう、体制整備に取り組みます。

- ・ 慢性期病院における緩和ケアの理解促進や関係機関との連携強化を目指し、小林病院職員を対象に研修会を実施(R7.10.8)。病院の要望に沿った内容や講師を調整し、満足度も高く実践に活かせる工夫を図った。

④ACP について、出雲市作成の「あんしんノート」の活用、各機関が主体的に実施する研修会や地区単位の座談会、SNS での情報発信等を通じた理解を深めます。併せて、積極的な取組事例の共有等を通じて実践に向けた取組を推進します。

- ・ 緩和ケア検討会において ACP にかかる普及啓発について状況把握を行い、推進に向けた検討を行った(R8.3.4)。
- ・ 出雲市では「在宅医療座談会」等の場を通じて「あんしんノート」の活用を含む住民向けの普及啓発に取り組み、R6 年度からは介護保険証・後期高齢者医療保険証送付時のちらし同封等により普及啓発も行った。
- ・ R6 年度より「出雲市在宅医療介護連携推進団体補助金」を創設し、医療介護専門職の資質向上に向けた取組支援を実施。コミュニティセンターやお寺など生活に身近な場所での講話に加え、R7 年度は医療介護従事者を対象に「ACP 実践研修会」「老衰における人生の最終段階の医療・ケア研修会」を開催し、両研修受講修了者には認定バッチが進呈され、専門職の ACP 実践に取り組んだ。
- ・ 島根県が試行的に取り組む「VR 高齢者住まい看取り出前研修会」について関係団体への周知、出前講座の実施に協力した。

大田圏域

1 がん

①「大田圏域健康長寿しまね推進会議」と連携し、たばこ・アルコール対策、減塩や野菜摂取などの一次予防の取組を推進します。

<大田市立病院>

- ・ 市民フォーラムにおいて、減塩や乳がん検診について啓発を行った。

<加藤病院>

- ・ 禁煙治療を実施(ニコチン依存症管理機関施設基準の維持)した。

<大田市>

- ・ 県央保健所と連携し、大田市青年協議会に介入し、健康づくりの取組を実施した。

<川本町>

- ・ 「川本町健康増進計画第3期計画(健康長寿すこやかプラン)」に基づき一次予防の取組を推進している。学校保健、職域と連携した働き盛り世代への啓発の取組や防煙教育を実施した。

<邑南町>

- ・ 健康長寿おおなん推進会議と連携し、各所属で野菜プラス 1・減塩、身体活動・運動の啓発を行った。

<県央保健所>

- ・ 「健康長寿しまね推進事業」による各種イベントや展示スペース等での啓発活動を行った(プラス 1 活動、運動、野菜摂取、減塩、歯周病予防等)。

②胃がんの早期発見に向けて、大田市の胃内視鏡検診の取組の管内全域への波及を目指します。

<島根県看護協会大田支部>

- ・ あすてらすフェスティバル 2025 で、がん予防と検診の啓発のパネルを展示した。

<大田市>

- ・ 胃内視鏡検診について、令和5年度より順次受診枠を拡大しながら実施しており、開始以降胃がん発見率は上昇した。

<川本町>

- ・ R8 からの胃内視鏡検診の実施に向けた体制整備をすすめた。

<美郷町>

- ・ R8 年度に単独実施に向けて県、実施予定医療機関、邑智郡と情報共有しながら体制整備をした。

【大田圏域】

< 邑南町 >

- ・ 令和8年度に胃内視鏡検診を実施予定。

< 県央保健所 >

- ・ 大田圏域がん担当者会にて、邑智郡 3 町の胃内視鏡検診導入に向けた情報交換を行った。(令和7年10月24日)

③子宮頸がんの予防のため、HPV ワクチン接種の促進に向けた啓発を行います。

< 大田市医師会 >

- ・ 現在 HPV ワクチンの接種率は低い。引き続き、色々な場面で必要性、有効性、安全性について広報活動を行う。

< 公立邑智病院 >

- ・ 子宮頸がん検診、ワクチン接種を継続して行った。

< 加藤病院 >

【HPV ワクチン接種の促進】

- ・ 院内の職員のご家族に対し、また高校への啓発を行った。

< 大田市 >

- ・ 対象者への個人通知にあわせ、ワクチン接種の有効性、安全性、接種に係る副反応等の情報提供を行い、接種勧奨を実施した。

< 川本町 >

- ・ 対象者への個別通知、広報、ホームページ、ケーブルテレビ等で啓発を行った。

< 美郷町 >

- ・ 対象者への個別通知、ホームページにて接種勧奨を実施した。

< 邑南町 >

- ・ 接種対象者に個別通知し勧奨を実施した。
- ・ 中学3年生を対象に啓発物を配布した。

< 県央保健所 >

- ・ イベントにて啓発チラシを配布した。
- ・ がん征圧月間で保健所や大田市図書館でリーフレットやチラシを掲示・配布した。

④壮年期におけるがんの予防やがん検診・精密検査受診率向上に向けた取組を、「大田圏域地域・職域連携推進協議会」やしまね☆まめなカンパニー等、産業保健分野と連携して進めます。

< 大田市介護サービス事業者協議会 >

- ・ 会員事業所の中には職員の健康管理を積極的に行っている所もあり、周知することで介護サービスの健康経営推進に良い影響があることから、しまね☆まめなカンパニー認定事業所の紹介予定。

【大田圏域】

<大田市>

- ・ 市内事業所と連携し、乳がん検診(2年に1回)を実施した。
- ・ 市と連携協定を結んだ団体と連携し、がん検診の受診率向上のため周知を行った。

<美郷町>

- ・ 美郷町産業保健会と連携をとり、各事業所に対し要精検者に対する受診勧奨をしてもらい、精検受診率向上に努めた。
- ・ 美郷町産業保健会加入事業所へ町独自のチラシを配布し、胸部CT検査の受診勧奨を行った。

<邑南町>

- ・ 健康長寿おおなん推進会議働き盛り部会と連携し、各所属の事業所で女性のがん検診のポスター掲示とチラシを配布し啓発を行った。

<県央保健所>

- ・ 事業所やしまね☆まめなカンパニー登録事業所の訪問にて、がん検診の啓発ポスターやチラシを配布した。

がん診療連携拠点病院と大田圏域の医療機関との連携体制を強化するとともに、大田圏域でのがん医療提供体制を維持します。

<加藤病院>

【がん情報の提供促進】

- ・ がん情報提供促進病院として、がん診療連携拠点病院への紹介と情報提供を行った。

⑥在宅療養を希望するがん患者、家族が安心して在宅療養ができるよう、緩和ケアや在宅療養に携わる人材の育成を行うとともに、緩和ケア及び在宅療養を提供する体制や病院と診療所、訪問看護ステーション等の連携体制について検討します。

<大田市立病院>

- ・ 治療と仕事の両立支援コーディネーターを配置し、がん診療連携拠点病院と連携し患者支援を行った。

<加藤病院>

- ・ がん情報提供促進病院として、職域への労働衛生教育を行った。

⑦がん患者や家族、遺族の意向を踏まえ、医療機関や行政が連携し、がん患者や家族、遺族が情報交換や意見交換、学習等を行う場の設置を検討します。

<県央保健所>

- ・ 引き続き関係機関と連携し、必要時、情報交換や意見交換等行う場の設定を検討する。

2 脳卒中

①「大田圏域健康長寿しまね推進会議」と連携し、運動や減塩、野菜摂取など基礎疾患となる生活習慣病の発症予防の取組を推進します。

また、基礎疾患で最も多い高血圧の予防や血圧の適切な管理について啓発を強化します。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 歯・口腔の健康(特に歯周病との関連)と生活習慣病の関係について指導・啓発を行った。

<加藤病院>

- ・ 住民サロン・通いの場への出前研修を行った。
- ・ 介護保険要介護認定者への訪問看護利用促進支援を行った。

<大田市>

- ・ 「大田圏域健康長寿しまね推進会議」にて生活習慣病予防のために運動や減塩、野菜摂取などについて啓発実施した。

<川本町>

- ・ 「川本町健康増進計画第3期計画(健康長寿すこやかプラン)」に基づき一次予防の取組を推進している。学校保健、職域と連携した働き世代への啓発の取組や防煙教育を実施した。

<邑南町>

- ・ 健康長寿おおなん推進会議と連携し、各所属で野菜プラス 1・減塩、身体活動・運動の啓発を行った。
- ・ 事業所健診で適正体重・血圧測定の普及啓発を行った。
- ・ ハイリスク者対策として町内医療機関と連携し、糖尿病または高血圧で治療中者を対象にチラシを配布し、血圧・体重の自己管理を促した。

<県央保健所>

- ・ 「大田圏域地域・職域連携推進協議会」が発行するメーリングリストを通じて、「高血圧」をテーマとした情報を関係機関に発信した。

②「大田圏域脳卒中对策調整会議」で関係機関と連携を図り、脳卒中の発症予防と「大田圏域脳卒中患者の再発防止支援の取組実施要領」に基づく再発予防の取組を医療機関、市町と連携して推進します。

<大田市立病院>

- ・ 脳卒中発症予防事業を市と連携して行った。

<大田市>

- ・ 脳卒中発症予防事業対象者へ全数訪問を各地区担当より行い、再発予防に必要な生活習慣改善へのアドバイスなど啓発を実施した。

【大田圏域】

<加藤病院>

- ・ 住民サロン・通いの場への出前研修を行った。
- ・ 介護保険要介護認定者への訪問看護利用促進支援を行った。

<川本町>

- ・ 「大田圏域脳卒中患者の再発防止支援の取組実施要領」に基づき、医療機関、保健所と連携を図り取り組んだ。

<美郷町>

- ・ 「大田圏域脳卒中患者の再発防止支援の取組実施要領」に基づき、医療機関、保健所と連携を図り取り組んでいる。再発予防のためのチラシや必要時には血压手帳、糖尿病手帳を渡した。

<邑南町>

- ・ 「大田圏域脳卒中患者の再発防止支援の取組実施要領」に基づき、情報提供があった脳卒中発症者に対して保健師が訪問を行い、再発予防の意識づけを実施した。

<県央保健所>

- ・ 大田圏域循環器病対策検討会議を開催し、今後の循環器病対策について検討した。
(令和7年12月16日)

③より早い段階で適切な治療につなげるため、初期症状の周知など早期発見のための啓発を行います。

<大田市立病院>

- ・ 住民サロン等への出前講座を通じ啓発を行った。

<島根県看護協会大田支部>

- ・ まちの保健室事業(「あすてらすフェスティバル」「みちの駅かわもとの収穫祭」に参加)で、血压測定や健康相談を行い、早めの受診の必要性などについて話をした。

<大田市消防本部>

- ・ 市民への救命講習を通じて、「救命の連鎖」の初めの項目である「早期認識と通報」の中で、初期症状の説明を実施した。

<美郷町>

- ・ 認定調査や重症化予防の訪問時や出前講座でチラシ配布や血压手帳、糖尿病連携手帳を配布し、啓発をした。

<邑南町>

- ・ 脳卒中発症者への訪問時に再発予防の啓発を行った。

<県央保健所>

- ・ 大田市立病院、公立邑智病院において脳卒中が疑われる患者に対し、専門的治療を実施した。

【大田圏域】

④高度医療を担う医療機関へ円滑に搬送できるよう、消防機関と医療機関との連携体制の維持・強化を図ります。

<公立邑智病院>

- ・ 医療従事者コミュニケーションアプリ「Join」が R7.2 月から本格稼働し、救急隊から 2 次救急医療機関への情報共有、2 次救急と 3 次救急医療機関の情報共有が円滑になり、救命率の向上と医療機関の負担軽減に寄与した。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ マイナ救急実証事業の開始に伴い、大田消防本部の依頼を受けて全会員事業所に向け協力要請文書を送付した。

<大田市消防本部>

- ・ 大田救急業務連絡協議会を通じて、大田市立病院の医師及び看護師、出場救急隊に参加いただき症例のディスカッションを行い、連携強化を図った。

<県央保健所>

- ・ 高度急性期医療については主に出雲圏域、浜田圏域の医療機関、消防機関と連携して提供した。

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①「大田圏域健康長寿しまね推進会議」と連携し、減塩や野菜摂取、たばこ対策など心血管疾患に関与している生活習慣を改善するための健康づくり活動をより積極的に推進します。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 歯周病と心血管疾患の関係について指導・啓発を行った。

<加藤病院>

- ・ 生活習慣病療養計画書を作成し心血管疾患の予防に努めた。

<大田市>

- ・ 「大田圏域健康長寿しまね推進会議」にて生活習慣病予防のために運動や減塩、野菜摂取などについて啓発実施した。

<川本町>

- ・ 「川本町健康増進計画第3期計画(健康長寿すこやかプラン)」に基づき一次予防の取組を推進している。学校保健、職域と連携した働き世代への啓発の取組や防煙教育を実施した。

<美郷町>

- ・ 「美郷町第 3 次健康づくり計画」に基づき、関係機関と連携しながらライフステージに応じた健康づくり活動を実施した。学校保健、職域と連携し、バランス食の推進、嗜好食品の注意点等について啓発した。

【大田圏域】

< 邑南町 >

- ・ 健康長寿おおなん推進会議と連携し、各所属で野菜プラス 1・減塩、身体活動・運動の啓発を行った。
- ・ 事業所健診で適正体重・血圧測定の普及啓発を行った。
- ・ 事業所への出前講座やベジチェックを実施し、野菜摂取・運動の啓発を行った。
- ・ ハイリスク者対策として、町内医療機関と連携して糖尿病または高血圧で治療中者にチラシを配布し、血圧・体重の自己管理を促した。

< 県央保健所 >

- ・ 各種イベントや展示スペース等での啓発した(プラス1活動、運動、野菜摂取、減塩、歯周病予防等)。

②各市町、各保険者において、特定健康診査受診率のさらなる向上に向けた住民への啓発方法の工夫等の取組を行います。

< 大田市 >

- ・ 過去 5 年間の特定健診受診歴や内科受診歴から、未受診者の特性にあわせた受診勧奨通知を年 2 回実施した。在宅保健師による、未受診者勧奨訪問事業を実施した。健診受診者に健康年齢を表示した受診勧奨通知を実施した。
- ・ 令和8年度の予定・方針等：継続して実施。特定健診受診勧奨通知を実施する業者が変更になったため、健康年齢の通知は廃止した。

< 川本町 >

- ・ 土日の特定健診の実施やがん検診等とのセットした健診等で体制を充実した。年3回、個別の受診勧奨を行い、受診率の向上につなげた。

< 美郷町 >

- ・ 胃がん、胸部 CT 検査、腹部エコー検査を特定健診に併せて実施した。申込方法は1枚に集約し、返信用封筒使用の場合とネット予約ができるようにした。

< 邑南町 >

- ・ 集落保健衛生委員会を実施し、特定健診の申込書の配布と身近な立場からの受診勧奨の依頼を行うことで、受診率向上を図った。
- ・ 医療機関訪問で医師による受診勧奨の依頼を行い、受診への意識づけの強化を図った。

< 県央保健所 >

- ・ 「大田圏域働く人の健康づくり講座」を開催し、健康づくり活動表彰受賞した事業所の取組事例(健診受診等)を紹介した。(令和7年 11 月 13 日)

【大田圏域】

③「大田地区心不全連携協議会」を中心に、発症予防・早期発見のための啓発、心不全増悪への早期対応、リハビリテーションの推進、再発予防支援、緩和ケアの実施体制整備等の取組を進めていきます。

<大田市医師会>

- ・ 大田市立病院、加藤病院、県央地区の開業医、訪問看護ステーション、ケアマネ、薬剤師の間で定期的な研修会と情報交換の場を開催した。(心不全患者の再入院の減少など)。

<大田市立病院>

- ・ 県央心不全シートを作成し、関係機関と連携を図った。
- ・ 地域連携研修会で島根大学から講師を招き、関係機関とともに知識を深めた。

<加藤病院>

- ・ 発症予防、リハビリテーション、再発予防への支援を行った。
- ・ 心不全に対する緩和ケアを実施した。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 心不全連携をテーマとする大田市立病院地域連携研修会について、全会員事業所に周知した。

<川本町>

- ・ 町内医療機関の協力を得て、心不全についてケーブルテレビで周知した。

<県央保健所>

- ・ 「大田地区心不全連携協議会」と協働で作成した心臓病の啓発チラシを、訪問看護やケアマネに配布し、イベントでも配布した。
- ・ 「大田圏域循環器病対策検討会議」にて、心不全シートの共有や心疾患に関する啓発の取り組みの検討を行った。(令和7年12月16日)

④高度医療を提供できる医療機関へ円滑に搬送できるよう、消防機関と医療機関との連携体制の維持・強化を図ります。

<江津邑智消防組合消防本部>

- ・ 済生会江津病医師を招聘し、心筋梗塞等の心電図の研修会を開催し、救急隊の知識向上を図った。また、浜田・江津地区救急業務連絡協議会が主催する症例検討会に心筋梗塞が疑える症例を検討した。

<県央保健所>

- ・ 高度急性期医療については主に出雲圏域、浜田圏域の医療機関、消防機関と連携して提供した。

4 糖尿病

①「大田圏域健康長寿しまね推進会議」と連携し、運動の推進、野菜摂取や減塩などの健康づくりの取組や環境整備を進めます。

また、「大田圏域地域職域連携推進協議会」と連携し、特に働き盛り世代に対して、健診受診率や保健指導の実施率向上に向けた取組の推進、適切な受診や治療中断の防止に向けた啓発の強化など、関係機関の連携による効果的な取組の推進を図ります。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 歯・口腔の健康(歯周病との関連や野菜摂取を可能とする口腔の状況)と生活習慣病の関係について指導・啓発を行った。

<大田市立病院>

- ・ 認定看護師による糖尿病外来を開設し、自宅で安心して生活ができるようサポートした。
- ・ 出前講座や糖尿病教室を通じた啓発を行った。

<加藤病院>

- ・ 糖尿病専門医を巡回診療、訪問診療、外来診療等へ配置した。
- ・ 糖尿病専門医による糖尿病教室を開催した。

<島根県薬剤師会大田支部>

- ・ 全薬局ではないが、栄養相談や管理栄養士主催のイベントを開催した。

<大田地区歯科衛生士会>

- ・ 大田圏域健康長寿しまね推進会議「お口の健口！歯ッピー講座」において、歯周病と糖尿病等全身疾患の関連を踏まえ歯科の定期受診を含めた予防啓発を実施した。

<大田市>

- ・ 糖尿病性腎症重症化予防事業について、受診中断者への受診勧奨を実施した。国保保健指導事業で、受診勧奨判定値以上の方に対し、在宅保健師による生活習慣病の生活指導や受診勧奨のための訪問を実施した。
- ・ 「大田圏域健康長寿しまね推進会議」にて生活習慣病予防のために運動や減塩、野菜摂取などについて啓発実施した。

<川本町>

- ・ 特定健診の結果から、糖尿病、CKD ハイリスク者に対して個別フォローを実施した。

<美郷町>

- ・ R5 年度から産業保健会と協会けんぽ島根支部と連携をとり、町保健師が町内事業所へ訪問して特定保健指導を実施し、生活習慣改善に取り組んだ。

<邑南町>

- ・ 健康長寿おおなん推進会議と連携し、各所属で野菜プラス 1・減塩、身体活動・運動の啓発を行った。

【大田圏域】

- ・ 事業所への出前講座やベジチェックを実施し、野菜摂取・運動の啓発を行った。
 - ・ 事業所健診で適正体重・血圧測定の普及啓発を行った。
 - ・ ハイリスク者対策として、町内医療機関と連携して糖尿病または高血圧で治療中者にチラシを配布し、血圧・体重の自己管理を促した。
- ＜県央保健所＞
- ・ 各種イベントや展示スペース等での啓発した(プラス1活動、運動、野菜摂取、減塩、歯周病予防等)。
 - ・ 「大田圏域循環器病対策検討会議」や「大田圏域地域職域連携推進会議」「大田圏域健康長寿しまね推進会議」において、特に働き盛り世代の健康づくりの取り組み強化等について検討をすすめた。

②糖尿病の予防及び適切な治療や指導を受けることができるよう、市町の対策会議や「大田圏域糖尿病対策検討会」において、かかりつけ医と専門医の連携、医科歯科連携をはじめ、多職種・多機関による連携の強化を図り、腎症等合併症の発症予防、重症化予防の取組を推進します。

- ＜大田邑智歯科医師会＞
- ・ 糖尿病手帳を利用した医科歯科連携への取り組みを模索した。
- ＜加藤病院＞
- ・ 巡回診療/住民サロン/通いの場などの機会を活用した啓発活動を行った。
 - ・ 糖尿病専門医を巡回診療、訪問診療、外来診療等へ配置した。
 - ・ 生活習慣病療養計画書を作成し糖尿病の予防に努めた。
- ＜大田市＞
- ・ 「大田圏域糖尿病対策検討会」にて、圏域における糖尿病に関する課題等について共有した。また、市内事業所と連携し、健康づくりの意識啓発を実施することができた。
- ＜川本町＞
- ・ 糖尿病ハイリスク者に対して疾病に関する知識の普及や運動、栄養指導を充実させ、生活改善につなぐことを目的に町内医療機関と連携を図り、糖尿病教室を実施した。
- ＜邑南町＞
- ・ 糖尿病の重症化予防のため、邑南町版糖尿病連携手帳を活用してかかりつけ医から歯科眼科への受診勧奨を依頼した。調剤薬局を含め啓発ポスター掲示を依頼した。
- ＜県央保健所＞
- ・ 大田圏域糖尿病対策検討会を開催し、管内多職種で大田圏域における現状や取組について共通認識を図り、今後の取組について検討した。今年度から検討会に歯科医師にも参加いただき、医科歯科連携について情報共有を図った。(令和7年 11 月 20 日)

【大田圏域】

③「糖尿病友の会」等の患者会に対して、関係機関及び市町等による支援を継続して実施します。

<美郷町>

- ・ 糖尿病友の会(福寿の会)の活動支援。令和7年度は4回の活動を予定。うち1回は6年ぶりに大田市立病院で実施される糖尿病教室へ参加した。

5 精神疾患

①精神障がい者が地域の一員として身近な地域で自分らしい暮らしができるよう、地域住民の理解を得ながら各市町において精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進します。

<加藤病院>

- ・ オンライン診療を整備し、医療アクセスの改善を図った。

<川本町>

- ・ 地域での疾患に対する理解をすすめるため、計画的に認知症サポーター、ゲートキーパー研修を行い、関係機関とも連携を図り地域包括ケアシステムの構築を推進した。

<邑南町>

- ・ 障がい者総合支援協議会相談支援部会を協議の場とした。

<県央保健所>

- ・ 市町が開催する自立支援協議会等へ参加した。
- ・ 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた支援として、邑南町をモデルとして、「邑南町自立支援協議会相談支援部会」に参画した。
- ・ 大田圏域精神保健福祉関係機関連絡会にて、長期入院患者の事例検討を行い、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に関する意見交換を実施した。(令和7年12月18日)
- ・ 「大田圏域精神保健医療福祉連絡協議会(精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議)」を開催した。(令和8年3月11日)

②精神疾患に対する正しい知識の普及を図るとともに、市町による精神保健に関する相談支援体制の整備や基幹相談支援センターの設置等の動きと連携しながら、学校や地域と連携しより早期に支援につなぐ取組や、医療機関や相談支援事業所等との協働による当事者や家族からの相談支援体制を強化します。

<石東病院>

- ・ 第49回自殺予防学会が出雲で9月5日から7日まで開催され、若年者のうつと自死に関する講演を行った。そのほか自治体からの要請に応じて、メンタルヘルスに関する

【大田圏域】

る講師派遣を行った。

<大田市消防本部>

- ・ 新入職員対象にゲートキーパー研修の受講を案内、支援体制の強化を図っている。

<大田市>

- ・ 精神疾患に対する正しい知識の普及や、悩んでいる人への相談支援を地域に普及するために、今年度は年に4回、地域住民や相談支援事業所を対象にゲートキーパー研修を実施した。

<川本町>

- ・ 相談支援体制を強化するため、令和3年度より月1回サテライト相談会を実施した。

<美郷町>

- ・ 地域のサロンにて、精神疾患についての正しい知識の啓発を行った。

<邑南町>

- ・ 老人クラブを対象にゲートキーパー研修を行い、正しい知識の普及や、周りの人の不調に気づき支援機関につなげ、地域で見守る体制について啓発した。
- ・ 当事者や家族に対して、医療機関、相談支援事業所、社会福祉協議会、民生委員と連携しながら支援した。

<県央保健所>

- ・ 「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」や「健康長寿しまね推進事業」等の取り組みに合わせて普及啓発を実施した。
- ・ こころの健康相談(所内・巡回相談)や思春期のこころの健康相談、訪問や電話等による相談(随時)を実施した。
- ・ 市町担当者会議において各市町の取り組み状況を共有した。(令和7年6月20日)

③緊急的な医療相談、受診等も含めた精神科医療に対応するため、圏域内外の医療機関や消防、警察等関係機関と連携し、精神科医療体制の一層の充実を図ります。

<大田市立病院>

- ・ 精神科救急医療体制整備大田圏域連絡調整会議、庁内自死対策専門部会の会議に出席し、石東病院はじめ他機関と連携を図った。

<加藤病院>

- ・ 石東病院から外来診療支援に来ていただき医療相談、受診等も含めた精神科医療に対応できるようにした。

<石東病院>

- ・ 緊急対応が必要なケースについて、医師同士での相談によりスムーズに対応できたケースがあった。事前の相談により受け入れ可能と判断したケースを除いては、引き続き時間外の救急搬送による対応は職員不足により困難なため、出雲や浜田圏域と連携した。

【大田圏域】

<大田市消防本部>

- ・ 精神科救急医療体制整備大田圏域連絡調整会議、庁内自死対策専門部会自死対策ネットワーク会議に出席、搬送困難事例など共有、他機関との連携強化を図った。また救急隊については、精神科フロー図に沿って対応することにより、関係機関と共通認識のもと迅速に対応することができた。今後も連携を継続していく。

<県央保健所>

- ・ 精神科救急情報センターとして相談対応を実施した。
- ・ 「精神科救急医療体制整備大田圏域連絡調整会議」を開催し、緊急的な医療相談等への対応について検討した。(令和7年9月1日)
- ・ 石東病院が精神科救急医療施設として夜間休日の空床を確保し、精神科救急医療に対応した。
- ・ 石東病院の協力により大田市立病院、公立邑智病院、加藤病院において外来医療を提供した。

④地域包括支援センター、かかりつけ医、認知症サポート医及び認知症疾患医療センター(石東病院)等が連携し、認知症の啓発や治療体制構築のための地域ネットワーク構築と対応力向上を目指します。

<大田市医師会>

- ・ 認知症についての一般市民への啓蒙活動とウォーキングを通じた認知症予防の学習会を神経内科と精神科医の共同で、温泉津町で開催し多くの方の参加があった。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 歯科医師認知症対応力向上研修を受講し、認知症の理解を深めた歯科医師を「オレンジデンティスト」に登録し、認知症患者が歯科医療を受けやすい環境を整備した。

<加藤病院>

- ・ 川本町認知症初期集中支援チーム(認知症サポート医)に参画した。
- ・ 住民サロンや通いの場へ専門医を派遣し、出前研修や相談会(巡回診療・通いの場で実施)を実施した。

<石東病院>

- ・ 島根中央高校、川本中学校の生徒に認知症およびこころの健康についての授業を行った。地域住民を対象とした認知症予防についての講演を行った。
- ・ 「大田圏域認知症ネットワーク協議会」を保健所と共催して開催した。(令和7年12月25日)

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 「大田圏域高次脳機能障害者ネットワーク会議」に参加した。

<大田市>

- ・ 認知症サポーター養成講座の開催による正しい知識の普及を行った。

【大田圏域】

- ・ 関係機関との連携による啓発活動を行った(認知症疾患医療センター、RUN 伴しまね、家族会等)。
- ・ 当事者の声を反映したパネル展示をした(啓発月間)。
- ・ おおだ彼岸市で認知症啓発の該当キャンペーンを関係機関と実施した。
- ・ 若年性認知症がテーマの映画「オレンジ・ランプ」上映会を開催した。(市3か所:9月)
- ・ VR 認知症体験会の実施した。(市内3か所:1月~2月予定)
- ・ 認知症初期集中支援チームによる早期介入、会議の定期開催による顔の見える関係性の構築した。
- ・ 連携型認知症疾患医療センター,認知症地域支援推進員,市職員にて定期的に会議を開催し、情報共有を行った。

<川本町>

- ・ 若年性認知症をテーマにした映画「オレンジ・ランプ」の上映会、中学校・高校での出前講座を大田圏域認知症疾患センターとの共催により実施した。

<県央保健所>

- ・ おおだ彼岸市「中日つあん」で認知症啓発の街頭キャンペーンを関係機関と実施した。(令和7年9月23日)
- ・ RUN 伴しまねと協力し、管内の関係者とともに認知症啓発を推進するため、温泉津町でウォーク並びに研修会を開催した。(令和7年10月19日)
- ・ 大田圏域市町認知症担当者会を認知症疾患医療センター(石東病院)との共催により開催した。(令和7年6月30日)
- ・ 大田圏域認知症ネットワーク協議会を認知症疾患医療センター(石東病院)との共催により開催した。(令和7年12月25日)

⑤治療が必要な人が早期に医療機関受診に繋がるよう、認知症疾患医療センター(石東病院)、医師会、歯科医師会、薬剤師会等と連携し、認知症対応力向上に向けた人材育成を図ります。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 「オレンジデンティスト」に加え、地区で認知症関連施策会議への参加や在宅歯科医療に係る連携体制を確保している歯科医師を「オレンジデンティスト・プラス」とし、歯科医師のネットワーク構築に努めた。

<石東病院>

- ・ ちゅうりっぷの会(認知症本人・家族の会)との連携した。

<島根県薬剤師会大田支部>

- ・ 来局時、患者や患者家族の動向などを見ながら随時担当医へ情報提供を行った。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 大田圏域認知症疾患医療センター主催の「認知症連携を考える会 in 大田」について

【大田圏域】

て、全会員事業所に案内した。

<大田市>

- ・ 地域包括支援センターを事務局として、認知症初期集中支援チームを設置し、医療・介護に適切につながっていない方の相談支援対応を行った。適切な支援が行えるよう、毎月1回チーム員会議を開催し、対応を協議した。
- ・ 県が開催される認知症キャラバン・メイト養成講座に、今後サポーター養成講座を開催する意欲のある福祉関係職員の受講促しを行うとともに、受講したメイトが講座を開催しやすいようサポートを行った。

6 救急医療

①初期救急医療を含め、必要な救急医療体制を維持・確保できるよう、引き続き関係機関との検討を進めます。

<大田市医師会>

- ・ 令和7年10月よりマイナ救急の利用が開始された。救急時救急隊での救急車の利用時このシステムの利用で、患者の効率的(適切)な搬送先医療機関の選定に非常に大きなメリットを体験した。

<大田市立病院>

- ・ 出雲地区救急業務連絡協議会に参加し、症例検討を行った。

<加藤病院>

- ・ かかりつけ医機能として、在宅療養支援病院として、そして地域包括ケア病棟の役割としてのサブアキュート機能として休日夜間を含む初期救急医療に対応した。

<県央保健所>

- ・ 医療連携にかかる雲南・出雲・大田圏域合同意見交換会に参画し、三次救急医療機関をはじめとする医療提供体制の確保に向けたスムーズな連携について意見交換を行った。(令和7年11月26日)
- ・ 社会福祉施設等に対しても、医療機関からのスムーズな退院への協力依頼を行った。(10月2日:入退院連携検討会、12月17日:大田市介護サービス事業者協議会居宅介護支援部会等様々な機会にて)
- ・ 大田圏域救急医療関係機関連絡会を設置し、第1回連絡会を開催。年末年始の長期連休を控え、各関係機関における現状や今後の診療体制等について情報共有を行った。(令和7年12月23日)
- ・ 出雲地区及び浜田・江津地区それぞれの救急業務連絡協議会総会に参加した。(出雲地区:令和7年6月20日、浜田・江津地区:令和7年8月18日~8月29日(書面開催))

【大田圏域】

②二次救急医療を担う医療機関において、軽症患者の集中により本来の救急医療の役割に支障を来すことがないよう、上手な医療のかかり方等について、住民への啓発を推進します。

<大田市消防本部>

- ・ 救急車の適正利用に対して、本庁のデジタルサイネージの活用や市民への救命講習を通じて啓発活動を実施。

<江津邑智消防組合消防本部>

- ・ 公共施設等に救急車適正利用のポスターを配布し啓発活動を実施した。

<県央保健所>

- ・ 救急医療体制確保への協力について、各市町の広報誌にて啓発した。(大田市:12月18日、川本町:12月20日、美郷町:1月、邑南町:1月、それぞれ全戸配布)

③ドクターヘリや防災ヘリコプター等を活用した救急患者搬送について、医療機関、消防機関等の各関係機関の緊密な連携を図り、効果的な広域搬送体制を確保します。

<公立邑智病院>

- ・ 救急隊員へ指示・指導・助言を行う医療機関として、定期的に病院実習を受け入れており、救急室に併設して消防職員用の執務室を設置している。

<加藤病院>

- ・ ドクターヘリや防災ヘリコプター等を活用した速やかな救急患者搬送を行った。

<大田市消防本部>

- ・ キーワード方式により、通信指令課及び救急隊が適切にドクターヘリ要請を行い、早期医療介入、搬送時間の短縮を図った。搬送後には、島根県医療政策課を通じて確定診断情報や搬送の適応の有無等について情報提供を受けることで、活動についての検証を実施した。(R7年12月19日時点_要請:102、搬送:53)

<江津邑智消防組合消防本部>

- ・ ドクターヘリ事案にあっては、今年度から島根県が調査し県から確定診断を頂いている。これを基に、通信指令課、出場救急隊で適切な活動であったか事後検証を行った。

<県央保健所>

- ・ 県医療政策課主催の「令和7年度島根県ドクターヘリ運航調整委員会」に参加した。(令和7年11月19日)

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①災害時においても必要な医療提供体制を維持するため、医療機関等における事業継続計画(BCP)や避難行動要支援者(高齢者や障がい者等)に対する個別支援計画の作成等の取組を進めます。

<大田市立病院>

- ・ BCPの見直しを行った。

<加藤病院>

【災害時連携体制】

- ・ 定期のBCPの見直しを行った。
- ・ 新病院における災害対策(BCP含む)について、県・町と協議し対策立案した。
- ・ 経済産業省実証事業「地域新MaaS創出事業」において、地域事業者である「石見銀山テレビ放送(株)」さまと、医療MaaS車両による災害時の利活用(既存通信インフラや通信技術を活用した避難所でのオンライン診療など)について実証内で協議した。

<県央保健所>

- ・ 令和7年度に、大田圏域内の医科・歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションを対象として行った、「医療機関における事業継続計画(BCP)作成状況に関するアンケート調査」をふまえ、慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室・一般社団法人コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長 山岸暁美氏を講師に迎えて、大田圏域 BCP 策定支援研修会を開催した。(令和7年7月3日)

②地域災害拠点病院である大田市立病院を中心に、災害協力病院である公立邑智病院をはじめとした保健・医療・福祉分野の各関係機関との連携をより一層強化します。

<大田地区歯科衛生士会>

- ・ (公社)日本歯科衛生士会の災害歯科保健歯科衛生士育成に協力し e-ラーニングの受講を推進している。新たに大田地区の会員2名が受講を終え(公社)日本歯科衛生士会に登録をした。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 令和7年度は通所部会が大田市役所危機管理課より講師を招いてBCP研修を行った。各事業所、地域で課題が大きく異なるため、研修としては効果を感じにくかったとの報告があった。
- ・ <県央保健所>
- ・ 県医療政策課主催の「EMIS入力・衛星電話通信訓練」に参加し、大田圏域内の病院及び有床診療所との情報共有手段を確認した。(令和7年6月3日)
- ・ 「令和7年度第1回大田圏域地域保健専門職員研修」として、災害時初動対応研修を各市町及び保健所合同で実施した。(令和7年7月28日・8月6日)

【大田圏域】

③圏域内での大規模災害発生時に、各種保健医療福祉活動チームの派遣及び受援の調整、情報の連携・整理・分析等を行うため、保健所に設置する災害保健医療福祉地域調整本部の円滑な運用を図ります。

< 県央保健所 >

- ・ 令和7年度大田地域災害保健医療福祉対策会議を開催し、以下の内容について協議した。(令和7年7月3日)
 - －大規模災害時の保健医療福祉活動に係る体制について
 - －医療機関における事業継続計画(BCP)の作成状況に関するアンケート調査結果報告
 - －大田圏域における難病患者等の個別支援(避難)計画の作成状況について
 - －透析施設における災害対策について(島根県臨床工学技士会 県央地区災害時情報コーディネーター 坂本純平氏より)

8 感染症に対する医療[感染症予防計画]

①医療提供体制については、県が策定する指針等の内容を踏まえ、医療機関その他関係者と連携し、感染症医療提供体制の確保に取り組めます。

< 大田市医師会 >

- ・ 大田市医師会は、開業医会員の協力を得て、12月31日(水)より1月4日(日)までの5日間にわたる時間外発熱(救急)外来を実施。地元住民と他の総合病院への負担軽減を図った。
- ・ 今年は例年より1か月以上早くインフルエンザの流行開始が見られたので、地域住民に、年末年始のこのたびの医師会としての万全の救急時間外対応は効果的だった。インフルエンザに対する予防接種も順調におこなわれ、例年より小中学校での学級閉鎖は少ない状態であった。

< 加藤病院 >

【第一種及び第二種協定指定医療機関】

- ・ 引き続き発熱外来・患者受入・自宅療養者へ対応した。
- ・ 介護施設と連携を行った。

< 島根県薬剤師会大田支部 >

- ・ 引き続き一定の薬局において年末年始だけでなく臨時応需体制は整えた。

< 大田市介護サービス事業者協議会 >

- ・ 大田市立病院との月1回ウェブ会議にて感染症状況や面会制限などについて情報交換や情報の共有を行う事で、感染対策強化など予防につながった。

< 県央保健所 >

【大田圏域】

- ・ 県と各医療機関において、新興感染症発生・まん延時における医療提供の分担・確保に係る協定(医療措置協定)を締結(継続)した。
- ・ 管内又は隣接自治体におけるレジオネラ症や麻しん等特記すべき感染症情報を病院及び郡市医師会へ共有した。

②取組にあたっては、感染症法に基づき策定する予防計画や新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき策定する行動計画との整合性を図ります。

- <加藤病院>
- 【第一種及び第二種協定指定医療機関】
- ・ 感染症に関するBCP更新を行った。
- <島根県薬剤師会大田支部>(再掲)
- ・ 引き続き一定の薬局において年末年始だけでなく臨時応需体制は整えた。
- <県央保健所>
- ・ 島根県新型インフルエンザ等対策行動計画の改訂した(令和7年6月26日・県庁)
 - ・ 結核対策は、令和3年3月改定「島根県結核対策推進計画」に基づき早期発見・定期健康診断・予防接種・集団感染対策を重点として推進した。
 - ・ 結核・呼吸器感染症予防週間(9/24~9/30)にて、各市町での音声放送、ポスターの掲示等により住民啓発を実施した。
 - ・ 大田圏域感染症対策研修会を開催し、高齢社施設等における結核対策について講義を行った。(令和7年6月26日)
 - ・ 結核の新規患者発生時には、本人・家族の気持ちに寄り添いつつ、関係機関と連携を図りながら、迅速に対応した。また、患者管理として、定期健診、DOTSを実施。対応の評価として、医療機関感染管理認定看護師と連携してコホート検討会を実施した。
 - ・ 外国人労働者からの発病も増えてきており、早期発見・早期治療のためにも職域と連携した取組が必要となっている。

③今後発生する可能性のある新興感染症等に対する発生・まん延時の医療提供体制の確保については、これまで実際に対応してきた新型コロナウイルス感染症への対応をふまえるとともに、各感染症の特徴に応じて取り組めます。した

- <大田市立病院>
- ・ 保健所と共催で介護事業所向け研修会を開催した。
- <公立邑智病院>
- ・ 新病院には感染症患者に対応できる個室を3床設置しており、感染症患者の受け入れを行った。
- <加藤病院>
- ・ 引き続き発熱外来・患者受入・自宅療養者への対応を行った。

【大田圏域】

<島根県薬剤師会大田支部> (再掲)

- ・ 引き続き一定の薬局において年末年始だけでなく臨時応需体制は整えた。

<県央保健所>

- ・ 昨年度に引き続き、介護施設及び事業所の従事者向けに大田圏域感染症対策研修会を大田市立病院と合同開催。しまねCOMMONSを活用したオンデマンド配信を実施した。
- ・ 管内介護施設等の希望者への地域の感染症流行状況のメール配信を週1回実施。
- ・ 鳥インフルエンザ対応訓練～鳥インフルエンザ発生時の保健班業務～を実施した。
(令和7年10月22日、11月4日)

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①人口減少等に伴う医療需要の変化を見据え、地域の拠点病院を核とした医療提供体制の再構築について、関係者との検討を進めます。

<大田市医師会>

- ・ 医療の過疎地における、住民への医療サービスの低下が進まぬように大田市立病院では積極的にオンライン診療を展開しており、一定の成果を出した。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 1.5次医療機関として大田市立病院へ口腔外科設置の働きかけを継続的に行った。

<大田市立病院>

- ・ 令和3年1月から池田診療所へ医師・看護師を派遣し、診療を継続した。

<公立邑智病院>

- ・ 郡内各地区の地域医療を確保するため、令和6年10月から邑南町市木地区に附属市木診療所を開設し、診療を継続した。(週3日外来診療)
また、国保診療所医師が不在の代診医派遣等の支援をした。

<加藤病院>

【大田圏域における広域的な医療提供体制の構築・連携に向けた意見交換会】

- ・ 移動困難・人口減少・事業継続性に対する課題解決のため、経済産業省実証事業「地域新 MaaS 創出事業」「経産省産福共創モデル創出事業」について連携した。

<大田市地域医療推進課>

- ・ 1市2町3病院による広域的な医療提供体制の構築・連携に向けた意見交換会を開催し、課題共有や協力連携による取り組みを行った。

<川本町>

- ・ 圏域内の1市2町2病院の実務者間で市町を超えた一次医療の維持、提供のあり方について検討を行った。

【大田圏域】

<県央保健所>

- ・ 地域保健医療対策会議(第1回:令和8年2月13日)及び同医療・介護連携部会(第1回(書面開催):令和7年7月9日~16日、第2回:令和8年2月13日)を開催し、医療機関の役割分担、連携や病床機能について協議した。

②特に、在宅医療も含めた一次医療の維持・確保について、住民により身近な市町を主体とした議論を進めていきます。

<加藤病院>

- ・ 県指定地域医療拠点病院として、以下①~③の主要3事業のうち2事業を行った。
※昨年度実績①無医地区及び巡回診療4地区(川本町:芋畑・田窪、大田市:井田・福波)②へき地診療所医師派遣(美郷町君谷診療所)、③診療所代診医等派遣要請0回

<大田市地域医療推進課>(再掲)

- ・ 1市2町3病院による広域的な医療提供体制の構築・連携に向けた意見交換会を開催し、課題共有や協力連携による取り組みを行った。

<美郷町>

- ・ 大田市主催の「地域医療提供体制の構築・連携に向けた意見交換会」(第11回:令和7年7月12日、第12回:令和7年11月5日)に参加した。
- ・ 雲南保健所、県央保健所、美郷町意見交換会。(令和7年8月5日)
- ・ 雲南保健所、県央保健所、雲南市立病院、飯南町立飯南病院、美郷町意見交換会。(令和7年11月4日)

<県央保健所>

- ・ 開業医を中心とした「在宅医療等に関する懇話会」を開催し、在宅での看取り、認知症を含む精神医療について、各医療機関の機能を踏まえた医療提供体制のあり方等について意見交換を行った。(第2回:令和7年7月14日、第3回:令和7年12月16日)
- ・ 第1回美郷町×飯南町情報交換会を雲南保健所と連携して開催。互いの町の医療介護資源や提供体制の状況、取り組み等共有→相互理解を深め、圏域を超える連携を強化する目的で実施した。(令和6年11月4日)

③医師や看護師等の医療従事者の確保については、「医師確保計画」等に基づく各種事業を活用し、引き続き必要な取組を実施します。

<公立邑智病院>

- ・ 小学生の病院見学を受け入れたり、各種学生の実習の受け入れを継続した。(今年度初期臨床研修医等延べ74名受け入れ)

<加藤病院>

【地域医療人育成と確保】

【大田圏域】

- ・ 限られた人材の有効利用のためにタスクシフトとして、経済産業省実証事業「地域新MaaS 創出事業」を受託し、DtpwithXの実証事業を行った。
- ・ 将来の地域医療人の育成のため、産学連携として、矢上高校さま・島根県建設業協会・邑智郡建設業協会さまと連携し、新病院建設現場にて、まちづくりの観点も含め学びあう機会を作った。

<大田市>

- ・ 島根大学医学部の地域枠推薦2名、石見高等看護学院の地域枠推薦1名
- ・ 島根大学医学部地域枠推薦の医学生や研修医との交流会の開催
- ・ 市内高校生と看護学生との座談会の開催
- ・ 市長と石見高等看護学院地域推薦学生とのランチミーティング
- ・ 市内全小中学校における地域医療教育推進事業の実施補助

<県央保健所>

- ・ 「医師確保計画の推進に関する支援事業」について、公立邑智病院及び加藤病院から提出された事業計画書を第1回地域保健医療対策会議医療・介護連携部会で協議し合意を得た。(書面開催:令和7年7月9日~16日)

10 周産期医療

①引き続き「大田圏域周産期保健医療検討会」を開催し、周産期医療体制の維持・充実を図るとともに、大田圏域内外の医療機関及び関係機関との連携強化を図ります。

<公立邑智病院>

- ・ 地域振興における重要施策として、新病院でも LDR を2床設け、お産ができる環境を維持した。

<邑南町>

- ・ 2月に町の周産期連絡会を開催し、公立邑智病院、町内助産院と切れ目ない支援に向けて検討した。

<県央保健所>

- ・ 「大田圏域周産期保健医療検討会」を開催し、現状の確認や救急搬送体制の確認等を行った。(令和8年2月書面開催)

②助産師が、医師との連携のもと今後も継続して主体的なケアを提供するために、その技術力向上やキャリア形成のための研修の周知、活用支援を図ります。

<県央保健所>

- ・ 引き続き研修の周知等実施する。

【大田圏域】

③令和6(2024)年度、全市町村が「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の機能を併せ持つ「子ども家庭センター」を設置する予定であるため、各市町において円滑な運用に努めます。

<大田市>

- ・ 大田市子ども家庭センター「おおだっこ」において、妊娠期からの切れ目ない伴走型支援、虐待防止の対策などに取り組んでいる。サポートプランは、できるだけ、子どもや保護者と一緒に作成し、対象者の思いを大切にしたい支援を実施することができた。大田市立病院とも定期的に連絡会を開催し、常に情報共有しながら適切な支援につなげることができた。

<川本町>

- ・ 令和6年4月より、役場健康福祉課内に「子ども家庭センター」を設置している。妊娠期から切れ目ない支援が提供できるよう取組をすすめた。

<美郷町>

- ・ 令和6年4月より、健康福祉課内に「美郷町子ども家庭センター」を設置し、妊娠期から母子保健と児童福祉が一体となって子育て世帯に対し継続した支援を行った。

<邑南町>

- ・ 従来の子どもまるごと相談室を子ども家庭センターとして位置づけ、母子保健と児童福祉が一体となって妊娠期から切れ目のない伴走型支援を行い、必要なサービスにつなげた。

<県央保健所>

- ・ 市町母子保健担当者連絡会を開催し、各市町の取組状況や課題について意見交換した。(令和7年7月8日)

11 小児救急を含む小児医療

①大田圏域内診療所での小児に対する医療の提供が維持できるよう、郡市医師会と連携して研修等の場を確保するとともに、病院と診療所の連携体制の維持・強化を図ります。

<大田市医師会>

- ・ 小児科医療についての地元での研修会は多くはないので、日本医師会やその他の保険医療団体からの WEB(zoom など)による研修会に積極的に参加し最新の医学的知識知識の吸収に努めた。

<大田市立病院>

- ・ R7.10より小児科医2名体制となり、診療所との連携が強化した。

【大田圏域】

②小児慢性特定疾病に罹患している児や医療的ケアを必要とする児が安心して生活できるよう、県が実施する研修等も活用しながらサービスを提供する看護師等専門職の人材育成に取り組めます。

<県央保健所>

- ・ 医療的ケアを必要とする子どもに対し、医療機関や市町等と連携した相談、訪問支援を実施。また、関係機関との情報共有のため状況に応じて支援会議を開催した。

③医療的ケア必要児を支える関係者との連携を強化し、レスパイト入院を含む支援体制の整備に取り組めます。

<公立邑智病院>

- ・ レスパイト入院を受けた実績もあった。

12 在宅医療

①重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

<大田市医師会>

- ・ 退院後も継続して医療を受けたい方には、退院前カンファレンスを活用しチームで医療を提供した。

<大田邑智歯科医師会>

- ・ 歯科訪問診療に対応する市内歯科医療機関の情報提供に努めた。

<大田市立病院>

- ・ 育成塾×地域連携研修会をコラボ開催し、医師会・介護事業所・行政等、地域の関係機関と顔の見える関係づくりを行った。

<大田地区歯科衛生士会>

- ・ 在宅歯科における口腔健康管理の充実を目的に、会員間での情報交換を継続的に行った。

<加藤病院>

- ・ 地域に住まうを実現するため、医療近接型住まい「穩」やサ高住、そして今後設置予定の介護医療院や、MaaS によるオンライン診療支援システムなど、住まうために必要な選択肢を整備提案した。

<島根県薬剤師会大田支部>

- ・ 引き続き多職種との研修会を実施。意見交換を含めた連携強化を目的として行った。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 令和7年度は市内に訪問看護ステーションが新規に増えた。西部地域を中心に展開

【大田圏域】

したいとの意向で、人口減少の進む西部地区のサポートは改善した。協議会としても、事業安定に向けて支援した。

<大田市>

- ・ 大田市歯科医師会、大田市介護サービス事業者協議会等と連携し「医療介護連携研修会」を開催した。

<川本町>

- ・ 川本町老人福祉計画に基づき、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう地域包括ケアシステムの深化をすすめた。

<邑南町>

- ・ 医療と介護専門職が目線を合わせ、よりスムーズな連携を図り、高齢者が地域で暮らすことを支援するため、多職種連携会議実務者会議を3回(①カンファレンスルール・退院に向けての調整の考え方、②リハビリとの連携強化、③ACP の普及・あんしんノートの活用)開催し、意見交換し、共通認識をもった。

<大田地域介護支援専門員協会>

- ・ 薬剤師との連携、入退院連携、歯科医師との連携等、研修を通して連携強化を図った。

<県央保健所>

- ・ 「大田圏域入退院連携検討委員会」を開催し、入退院に関する課題を関係者で共有した。検討事項については、委員及び職能団体等へ周知した。(令和7年10月2日)
- ・ 第1回美郷町×飯南町情報交換会を雲南保健所と連携して開催。互いの町の医療介護資源や提供体制の状況、取り組み等共有→相互理解を深め、圏域を超える連携を強化する目的で実施した。(令和7年11月4日)
- ・ 障がい、高齢になっても住み続けられる地域づくりに向けて、食の重要性に視点を置いた多職種研修会を大田食支援研究会と連携し開催予定。(令和8年3月15日)
- ・ 「大田圏域入退院連携ガイド」を更新した。

②病院による診療所医師の後方支援体制の整備や訪問診療の実施など病院と診療所の役割分担について検討するとともに、まめネット等のICTを活用した効率的な医療提供体制の構築を図ります。

<県央保健所>

- ・ 開業医を中心とした「在宅医療等に関する懇話会」を開催し、在宅での看取り、認知症を含む精神医療について、各医療機関の機能を踏まえた医療提供体制のあり方等について意見交換を行った。(第2回:令和7年7月14日、第3回:令和7年12月16日)

【大田圏域】

③医療介護福祉従事者の確保、定着のため、医療機関や介護福祉施設、教育、行政が連携し、地域医療や介護福祉の魅力発信、働きやすい職場づくり、魅力ある地域づくりを進めていきます。

<加藤病院>

- ・ 将来の地域医療人の育成のため、広く中高校生を受け入れ、そして医大生、リハビリ実習生、看護学生などともまちづくりの観点も含め学びあう機会をつくり、県内外にむけ情報発信した。

<美郷町社会福祉協議会>

- ・ 地域の診療所と通所介護事業所による協力医療機関契約締結。(利用者の健康管理の相談支援、緊急時の治療上の助言や受往診対応)利用者だけでなく、職員も安心してサービスを提供できた。

<大田市介護サービス事業者協議会>

- ・ 令和7年度は、福祉施設における人材育成、職場向上を進めるため、リーダーシップ研修を開催した。現場リーダーを担う方中心に参加され、自身が持つべき姿勢、態度、スキルについて学んで頂いた。

<大田市>

- ・ 介護人材の確保・育成のための事業を実施した(介護の入門的研修、介護現場の魅力発信動画の配信、資格取得・研修・講座受講費用の一部助成など)

④入院医療機関と在宅医療に関わる医療機関、介護福祉施設、薬局などが円滑に情報連携するため、「まめネット在宅ケア支援サービス」等の ICT 利活用を促進します。

<大田市立病院>

- ・ 退院調整や介護事業所との情報共有に活用した。

<加藤病院>

- ・ 他病院との連携拡大することで、まめネットの利用を促進した。

<島根県訪問看護ステーション協会大田支部>

- ・ みかめの輪に加入し、まめネットを活用した。
- ・ 大田市立病院に入院時には在宅情報をまめネット活用した。

<県央保健所>

- ・ 「大田圏域入退院連携検討委員会」でまめネットの活用について検討した。

⑤元気なうちから、本人家族と終末期について話し合っておく ACP について、医療機関、介護福祉施設、行政等が連携して住民にとって分かりやすい啓発に取り組みます。

<大田市立病院>

- ・ 大田市。美郷町の介護施設を対象に、施設における看取り研修を実施した。

<公立邑智病院>

【大田圏域】

- ・ 地域の出前講座として、医師が ACP についての講演をした。
- <加藤病院>
- ・ 自治会単位など、住まうエリアごとでの人生会議開催支援・入院時退院時、施設入所時などにおいて ACP をおこない早期から人生の最終段階におけるお気持ちを伺う。
- <大田市介護サービス事業者協議会>
- ・ 島根県主催、大田市共催の「高齢者住まい看取り研修会」、厚労省主催の「本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」について、全会員事業所に案内した。
- <大田市>
- ・ わたしの町の看護師さん事業による寸劇「あなたならどうする？もしもの時に受けたい医療」の公演を大田市社会福祉協議会と共催し通いの場やサロン等で ACP についての啓発を行った。
 - ・ 地域包括支援センターが、地域サロンや通いの場等地域の集まりに出向き、基本チェックリストを基に現在の自身の振り返りを行ってもらい、今後の生活(介護予防)について考えるきっかけを与えている。その中で、場合に応じ終活の講話も行った。
- <川本町>
- ・ エンディングノートを作成し、人生会議の普及を医療機関、中間支援組織等と連携し行っている。また、随時、介護保険事業所からエンディングノートを配布し、人生会議に取り組んだ。
- <美郷町>
- ・ 美郷町版のエンディングノートを作成し、地域のサロンや介護予防教室等の場で ACP の啓発、エンディングノートの説明・配布を行った。また広報やホームページに掲載し、関係機関にもノートを配布し周知をした。
 - ・ 居宅事業所連絡会で、ケアマネージャーと利用者家族による「在宅の看取り」に関する研修会を実施。研修会の中でエンディングノートについても周知を行った。
- <邑南町>
- ・ 多職種連携会議実務者会議において ACP の普及と邑南町版終活支援ノートの活用について、意見交換し理解を深めた。
 - ・ 出前講座を中心に町内で普及啓発を行った。(R7.12 月末:7 回 264 人参加)
- <県央保健所>
- ・ 啓発グッズを作成した(「人生会議」ロゴ入り風船)。

浜田圏域

1 がん

①各市や検診関係機関、職域保健関係機関、「しまね☆まめなカンパニー」等と連携し、研修会やイベント等の場を活用しながら、検診体制の整備・啓発活動の推進を図ります。

- ・ がん征圧月間(9月)、がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン月間(10月)に合わせ、浜田合同庁舎やイベント等でポスター掲示やグッズ配布などの啓発を実施した。
- ・ 「しまねまめな☆カンパニー」新規登録事業所へ訪問し、がん検診の啓発を実施した。
- ・ 事業所の事業主や安全衛生管理者等を対象とした職場の健康づくりセミナー(R8.1.21)でがん検診に関する啓発を実施した。
- ・ 浜田圏域地域・職域連携推進協議会連絡会(R7.10.1)において、関係機関に浜田圏域におけるがん検診受診率やがん登録データについて共有した。

②「がん対策担当者会」を開催し、各関係機関で情報共有等を行うことにより、がん検診および精密検査の受診率向上と精度管理、検診の実施体制の維持向上を図ります。

- ・ 浜田圏域がん担当者会(R7.11.21)を開催し、浜田市及び江津市とがん検診受診率やがん登録データの共有やがん検診体制についての情報共有を行った。

③浜田医療センターががん診療連携拠点病院としての機能を維持できるよう取り組むとともに、済生会江津総合病院の島根がん情報提供促進病院の体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられるよう、地域の医療機関との連携体制の強化を図ります。

- ・ 各医療機関や関係機関と情報共有を行いながら連携の強化を進めた。
- ・ 浜田国保連合体、浜田医療センター、浜田市、浜田保健所と在宅麻薬医療に関する検討会(R7.6.26)を実施し、課題と取組の方向性を共有した。
- ・ 浜田薬剤師会を対象としたPCAポンプ勉強会(R8.2.4 予定)を企画し、専門職に対する理解と課題認識の一致を図った。
- ・ 在宅でPCAポンプを用いた疼痛コントロール下の患者について、浜田医療センター、浜田市国保診療所、浜田市、浜田保健所、他関係機関と症例検討を行い、体制整備を図った。また、浜田市主催の多職種勉強会(R8.3.3)でも、本症例を用いて、課題の共有と現状の理解を関係者向けに促した。

2 脳卒中

①脳卒中の発症を予防するため、「浜田圏域健康長寿しまね推進計画」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト」と連動した一次予防の取組を強化していきます。

- ・ 浜田圏域健康長寿しまね推進会議において、食生活・運動等の生活習慣の改善を普及啓発した。
- ・ しまね健康寿命延伸プロジェクトのモデル地区活動では、第2期のモデル地区が決定した。今後、住民と共に地域の目指す姿を行政と共有しながら地区活動に取り組む。

②働き盛り世代の発症予防、再発予防については「浜田圏域地域・職域連携推進協議会」等とも連携し、取組を進めます。

- ・ 職場の健康づくりセミナーにおいて、事業主や安全衛生管理者に対し、MAMEインフォの啓発動画を周知する予定。

③循環器病対策の視点を持った検討の場を持ち、基盤整備に努めます。

- ・ 圏域循環器病対策担当者会にて実態の共有や今後の取組について検討する予定。

④脳卒中等情報システム事業を活かした対策の推進と関係機関との連携を図ります。

- ・ 両市、医療機関と連携した再発予防に取り組んだ。

⑤浜田医療センターにおいて、脳外科体制の維持を図ります。

- ・ 継続して維持した。

⑥西部島根医療福祉センターにおいては、麻痺や拘縮の改善、高次脳機能障害の改善を図り、より安心・安全な日常生活動作向上を推進します。

- ・ 継続して推進した。

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①心筋梗塞等の発症予防や早期発見の推進を目的に、引き続き「浜田圏域健康長寿しまね推進計画」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト」と連動した生活習慣を改善するための健康づくり活動を推進します。

- ・ 浜田圏域健康長寿しまね推進会議において、食生活・運動等の生活習慣の改善を普及啓発した。

【益田圏域】

- ・ しまね健康寿命延伸プロジェクトのモデル地区活動では、第2期のモデル地区が決定した。今後、住民と共に地域の目指す姿を行政と共有しながら地区活動に取り組む。

②多職種多機関が連携して急性期から維持期・生活期まで一貫したサービスを提供できる体制づくりを推進します。

- ・ 浜田医療センター、済生会江津総合病院、浜田市国保診療所、浜田市、江津市へヒアリングを行い各機関の現状を把握した。
- ・ 圏域循環器病対策担当者会において、実態の共有を行い、今後の体制整備について検討したいと思います。。

③済生会江津総合病院において、心不全地域連携パスの活用促進と定着効果の検証を行っていきます。

- ・ 保健所と定期的な連絡会を開催し、実態を把握している。

④浜田医療センターと済生会江津総合病院において、緊急カテーテル治療、不整脈治療体制を維持していきます。

- ・ 浜田医療センターは、継続して維持した。
- ・ 済生会江津総合病院においては、令和7年度から、緊急カテーテル治療が困難となった。

4 糖尿病

①糖尿病の一次予防については、地域・職域連携推進協議会等において、壮年期を対象に特定健康診査の受診率向上を目指した取組を進めます。

- ・ 浜田駅北医療フェスタにて、特定健診の受診や適正体重の啓発を行った。
- ・ 働き盛り世代を対象とした職場の健康づくりセミナーで啓発を実施した。
- ・ 両市の職域事業と連携し、市の職域連携会議への参画や事業所への健診受診の周知等を共に行った。

②糖尿病の合併症を予防するためには、血糖のみならず血圧、脂質、体重管理など集学的な治療を継続していくことが重要です。医療機関の未受診者や治療中断者に対して、医科歯科薬科など多職種と連携し、適切な受診勧奨や保健指導を行い治療につなげるための取組を推進します。

- ・ 両市が実施する国保加入者へのハイリスク者対策において、未受診者への受診勧奨や重症化予防のための早期発見のフロー図を見直す支援を行った。

【益田圏域】

③慢性腎臓病対策として、特に高齢者は感染症や脱水をきっかけに腎機能が悪化する場合があるため、療養支援を多職種で連携するとともに、地域の健康づくり活動の一環として取り組めます。

- ・ 昨年度から、圏域全体でCKDシールを活用し、患者の腎機能の状況を患者と医療関係者が共有し、適正な薬剤処方により重症化予防を推進した。
- ・ 梅雨時期と冬場の感染症流行時期の脱水予防の啓発チラシを作成し、関係機関を通して周知を図った。
- ・ 県が改定する「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を医師会へ周知するため、市と連携し次年度に説明会を開催予定。

5 精神疾患

①定期的に事務局連絡会を開催し、医療と福祉の連携を強化し、地域包括ケアシステムの構築を目指します。

- ・ 事務局連絡会を年2回(R7.10.16、R8.2.5)開催し、医療と福祉の場における現状と課題の共有や、精神障がい者にも対応した包括ケアシステムの構築についての検討を実施した。
- ・ 今年度上期に精神障がい者にも対応した包括ケアシステムの構築に係る関係者にインタビューに伺い、圏域の現状整理をしたのち単独だと7年ぶりとなる「浜田圏域地域生活移行・地域定着支援会議」を開催。意見交換の中でピアサポーターの地域での活躍推進、心のサポーターの養成・普及、小さいころからの普及啓発がキーワードとなった。

②浜田圏域精神保健福祉協議会治療継続等専門部会で、治療中断や自死関連の事例検討を通し、地域課題の明確化や関係機関等の連携、支援者の対応力向上を図り、支援体制の充実に努めます。

- ・ 年3回(R7.7.17、10.16、R8.2.5)開催した。今年度より両市の精神障がい者にも対応した包括ケアシステムの構築ワーキング構成メンバーへのスキルアップとしても位置付けがあり、より多くの関係機関へ参加について声をかけ、複合的な課題を抱える者への支援について検討する場となった。

③地域型認知症疾患医療センターを中心に、認知症専門医療の提供と関係機関の連携強化、認知症に対する正しい知識の普及を図ります。

- ・ 認知症疾患医療センター主催のサポート医連絡会・研修会(R7.9.12)、認知症対応力向上研修(R7.12.5)に参加した。

【益田圏域】

- ・浜田市認知症初期集中支援チーム員会議や江津市認知症ケース支援会議・チーム員会議など、市町村の開催する会議に参加した。ケース検討や情報共有を行った。
- ・認知症家族会が中心に実施する認知症月間街頭キャンペーンの協力した(R7.9.9、R7.9.20)

6 救急医療

①救急医療が安心して受けられるよう、圏域内の医療機関の役割分担と連携を進めるとともに、圏域を越えた県西部地域の関係機関、場合によっては、県東部地域の関係機関も見据えた連携体制をつくります。

- ・ 関係機関での情報共有を適宜行い、現状把握に努めた。
- ・ 病床ひっ迫の兆候や救急搬送困難事案の増加がみられた際には、保健所が中心となって圏域内の医療機関や消防本部等の関係者による連絡会議を開催し、状況の共有や対応策の検討等を行った。

②救急車の適正利用や、救急搬送に対する江津地域の状況を理解してもらうための啓発を推進します。

- ・ 住民への啓発を江津市とともに推進した。

③今後も引き続き、特定行為が行える救急救命士の養成や症例検討などの研修会を支援します。

- ・ 消防や医療機関を中心に研修会を開催した。

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①平時より、災害医療関係機関の情報共有による連携強化を図るため、浜田・江津地区災害保健医療福祉対策会議を開催し、緊密な連携体制の構築に努めます。

- ・ 県医療対策課主催のEMIS訓練と衛星電話訓練(R7.6.3)を行い、所内職員も含め実践的訓練に参入できた。
- ・ 浜田・江津地区災害保健医療福祉対策会議(R7.7.10)を開催し、関係機関との連絡体制の確認、透析対応の体制整備の共有を図った。
- ・ 災害時の透析医療提供体制整備のため、浜田医療センターと主軸として、特に情報連携の手段とするまめネットを介した病病連携の推進について、引き続き検討した。

【益田圏域】

②各市の災害訓練への支援や協力を行います。

- ・ 浜田市総合防災訓練(R7.6.1)、浜田市保健医療福祉合同研修会「災害研修」(R7.6.13)に参加し、圏域内の自治体の訓練模様を把握した。
- ・ 中国地区透析訓練(R7.9.1)にオブザーバー参加し、実際の訓練の模様を把握した。
- ・ 済生会江津総合病院災害訓練(R7.9.20)に参加し、実際の訓練の模様を把握した。
- ・ 大田圏域BCP策定支援研修会(R7.7.3)にオブザーバー参加し、当圏域の参考とした。

8 感染症に対する医療[感染症予防計画]

①医療提供体制については、県が策定する指針等の内容を踏まえ、医療機関その他関係者と連携し、感染症医療提供体制の確保に取り組みます。

- ・ 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター及び社会福祉法人恩賜財団済生会江津総合病院がそれぞれ開催する感染対策合同カンファレンスに延べ4回参加し、定期的に各圏域の医療機関と情報交換することで、日々の院内感染対策や感染症医療提供体制の確保のための連携が強化された。
- ・ 浜田市内の介護サービス施設・事業所を対象に、独立行政法人国立病院機構浜田医療センターと共催で「第1回高齢者福祉施設感染対策研修会・連絡会」を開催した。また、社会福祉法人恩賜財団済生会江津総合病院と江津市包括ケアセンターが主催の「江津市高齢者福祉施設連絡会」へ(R8.1)参加した。
- ・ 浜田港検疫感染症対策・港湾衛生管理協議会主催の「浜田港新型インフルエンザ検疫措置訓練」に参加し、緊急搬送体制の確認や関係機関との連携を図った。

②医療機関から、感染症の疑い例の連絡があった際に、速やかに必要な検査や調査を行えるよう体制を整備します。

- ・ 所内研修により、感染症発生時の初動を中心とした体制整備を図った。
- ・ 実際に、医療機関からの連絡に基づき、速やかに検査及び調査を行った。(デング熱、麻疹、風疹、レプトスピラ症)

③必要に応じて、食品衛生部門と連携するなど、各感染症に応じた感染拡大防止措置を講じるとともに、関係機関や県民に対して、必要な情報を発信していきます。

- ・ 感染症と食中毒の両方が疑われる患者の集団発生に対して、感染症部門と食品衛生部門が合同で調査を実施した。
- ・ 食品衛生部門と合同で、保育園及び児童クラブにおいて延べ5回、手洗い教室を実施し、感染症・食中毒対策の予防啓発を実施した。

【益田圏域】

- ・ 圏域内での感染症流行時には、学校欠席者・感染症情報システムにより、リアルタイムで社会福祉施設及び学校関係者へ延べ7回情報発信した。
- ・ 地元ケーブルテレビにご協力いただき、夏に流行する感染症(ヘルパンギーナ、アデノウイルス)、手足口病、ダニ媒介感染症及びインフルエンザについて広く注意喚起を実施した。
- ・ 6月に県内の公衆浴場施設で基準値を超えたレジオネラ属菌が検出されたため、管内各病院、管内各市医師会長あてに発生届、患者検体に関する留意点について周知した。また、管内の公衆浴場施設及び各宿泊施設に対してレジオネラ対策の徹底のため、立入を行った。
- ・ 百日咳が全国、島根県内全域でまん延していたため、7月に管内各病院、管内医師会あて発生届提出の周知を依頼した。

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①限られた医療資源(人材、施設等)を効率的、効果的に活用できるよう、医療施設間の機能の分担・連携を強化し、適切な医療を提供できる体制を維持、確保します。

- ・ 関係機関同士の連携強化に努め、浜田医療センターと済生会江津総合病院の機能分化は進んでおり、引き続き会議等で情報共有し、連携を強化した。

②専門性の高い医療等については、二次医療圏域での医療機能確保を基本としつつ、実情に応じて圏域の枠組を越えた連携を図ります。

- ・ 特に周産期医療については、圏域を越えた調整が必要になってくるので、所内での検討を行った。

③医療機能を維持していくために、各医療機関や市町村と連携し、魅力ある職場づくり・地域づくりに努めます。

- ・ 人材確保及び定着につながるよう、関係機関と定期的に会議を開催した。

④医師の確保については、現状と今後の見通しを調査(在宅医療供給量調査等)し、共有しながら対策を立てていきます。

- ・ 調査等の結果については、適宜会議の中でも報告を行い、施策につなげた。

⑤江津メディカルネットワークの活動を推進していきます。

- ・ 定期的に江津メディカルネットワークと会議で情報共有した。

10 周産期医療

①浜田圏域における周産期医療体制の維持を図るべく、「浜田圏域周産期医療連携体制検討会」を開催し、検討を行います。

- ・ 会議の開催には至っていないが、医療機関・市へのヒアリングと行政連絡会を実施した。また、毎月所内(所長・部長・健康増進課・医事難病支援課)で周産期医療の体制(済生会江津総合病院(以下、済生会とする)における妊婦の交互受診の評価等)についての検討を実施した。

②圏域の出生数の動向等も踏まえながら、院内助産システム、助産師外来の充実強化も含め、浜田圏域内の妊産婦が安心して過ごせるよう周産期医療体制の今後の方向性を検討します。

- ・ 今年度の取組は①と同様。

② 浜田医療センターにおいて、助産師を募集します。

- ・ 浜田医療センター附属看護学校卒業の助産師が毎年数名就職につながり、人材確保は出来ていた。一方で就職 1～3 年の若い助産師が半数いて、子育て等ライフワークバランスの配慮が必要である。今後の方向性として、引き続き人材確保と専門職としてのスキルアップできる現任教育が必要。

11 小児救急を含む小児医療

①小児科医以外の医師を対象とした小児科診療に係る研修を行うなどにより、小児初期救急医療体制の確保に努めます。

- ・ 小児科診療に係る研修会の開催について今後検討していく。

②適切な医療のかかり方やかかりつけ医・夜間救急や休日診療・電話相談の活用など住民への周知・広報を推進します。

- ・ 市を中心に、住民への周知啓発を実施した。

③「子ども医療電話相談(#8000)事業」の更なる普及に努め、保護者等の不安軽減と、医療機関への受診集中の緩和を図ります。

- ・ 市を中心に、住民への周知啓発を実施した。

12 在宅医療

①浜田圏域の在宅療養後方支援病院及び入院医療機関、在宅医療を担う診療所・訪問看護ステーションの円滑な連携による、在宅患者が安心して生活できる診療体制整備を進めます。

- ・ 浜田地区保健医療対策会議_医療介護連携部会(R7.12.16)にて、管内の病床機能や在宅療養の状況を踏まえて、構想区域の実現に向けた意見交換を実施した。

②医師の在宅医療供給量調査等を実施し、共有しながら対策を立てていきます。

- ・ 令和5年度の調査結果、及び医療連携推進事業による浜田医師会員のアンケート結果等をもとに、在宅医療体制について検討を継続。

③入院医療機関と在宅医療に関わる医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設、調剤薬局などの情報連携を推進するための連携ツールとして、「まめネット」の利用や「医療・介護連携シート」等を活用し、医療・介護連携の体制づくりを支援します。

- ・ MCS(メディカルケアステーション)などの ICT ツールの運用について、浜田市内の関係者を中心として協議を実施した(R7.5.1)。介護分野の事業所向けに、関係各所から ICT 利用の促進を行う。
- ・ 浜田市主催の多職種勉強会(R8.3.3)にて、ICT ツールを用いて連携した症例を題材に勉強会を実施した。関係各所へその必要性和利便性を促す。
- ・ まめネットの運用促進のため、広域連合事務組合や医療連携推進コーディネーターなどと連携し活動した。また、管内基幹病院である浜田医療センターへのまめネットの導入を目指し、院内関係者と検討を継続した。

④市が実施する在宅医療・介護連携推進事業や障がい福祉に係る相談支援の取組と連携し、在宅医療における課題の抽出及びその対応策、関係機関との連携や体制整備について、浜田圏域で協議を継続していきます。

- ・ 浜田市主催の多職種勉強会(R8.3.3)にて、ICT ツールを用いて連携した症例を題材に勉強会を実施した。

⑤地域の在宅医療提供体制の確保について検討を行うため、医療連携推進コーディネーター一配置事業を推進していきます。また、在宅医療を行う医師の負担軽減に向けた取組を今後も支援していきます。

- ・ 昨年7月より浜田市医師会でのコーディネーター事業が開始され、浜田市とともに医師会主催の「医療連携推進会議」に参画し、代診制度等への取組みについて検討した。

【益田圏域】

⑥住み慣れた自宅や、介護施設等、患者が望む場所で看取りが実施されるよう、住民向けに情報提供を行うとともに、管内で取り組まれる関係者向け研修等について支援します。

- ・ 地域における ACP の推進に向けて以下の取組を実施した。
- ・ 介護事業所等の職員を対象とした「VR 看取り住まい看取り研修会」を実施した。
- ・ 各市で開催される研修会で「人生会議(ACP)」のチラシ(漫画)を配布した。

益田圏域

1 がん

① 益田圏域がん予防対策検討会や市町担当者会議で検討を行い、近年需要が高まっている対策型胃内視鏡検診の導入や、結核検診と肺がん健診の同時実施等、がん検診実施体制の検討を行います。

- ・ 対策型胃内視鏡検査の導入について、住民ニーズを把握(益田市)し、二重読影体制の構築や、精度管理について圏域の課題等整理した。

② 益田圏域地域・職域連携推進連絡会、益田圏域健康長寿しまね推進会議等を通じて働き盛り世代のがん検診、精密検査の受診率向上に向けた取組を行います。

- ・ がん征圧月間(9月)では幼稚園・保育所の年長児の保護者、働く人の健康づくりセミナーの参加者等、ターゲットを絞り、各種事業を通して関係団体に受診率向上に向けた啓発を実施した。

③ 切れ目のない緩和ケアの提供のため、緩和ケアアドバイザーと協力し医療機関と地域の連携を図ります。

- ・ 益田赤十字病院緩和ケアアドバイザー連絡会に参加し、定期的に意見交換を行った。
- ・ 病院と訪問看護ステーションが連携した事例の共有を目的として、緩和ケア事例検討会を開催した。(R8.1.26)

④ 在宅での看取りについては、在宅療養支援病院とともに地域のバックアップ体制の強化を図ります。

- ・ 主治医不在時でも、在宅での看取りを実施できるための代診医制度の導入について、意見交換を行った。

⑤ ACPの啓発を各市町の実情に合わせて継続していきます。

- ・ 昨年度発足の益田地域 ACP を真剣に考えようの会で作成した圏域共通の ACP 普及啓発シート(思いをつなげるシート)を各市町の実情に合わせて活用して啓発した。

2 脳卒中

①「脳卒中等情報システム事業」及び「脳卒中発症者状況調査」による脳卒中患者の情報分析を行い、脳卒中発症の状況を評価するとともに、脳卒中の発症予防、基礎疾患の重症化予防に向けた生活習慣病適正管理の対策を継続します。

- ・ 益田圏域循環器病担当者会を開催し(R8.1)、益田圏域の現状と課題を整理し、必要な取り組みについて検討した。

②不足する高度急性期・急性期の医療については、圏域、県を越えた医療連携や早期に救急搬送することができる救急医療体制の確立により補完を図ります。また、急性期・回復期・維持期では、「地域クリティカルパス」や「脳卒中等情報システム事業」による保健指導等により、医療・保健・介護サービスの連携を図ります。

- ・ 脳卒中地域連携クリティカルパス合同委員会へ参画(6/13、10/10、2/13)。医療連携の実態を随時把握した。
- ・ 医療機関から情報提供された「脳卒中発症情報連絡票」を市町へ提供(43件)、市町主体で保健指導を実施した(35件)※R7.12.16時点

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①心筋梗塞等の心血管疾患の一次予防の推進や慢性心不全の増悪を予防するための基礎疾患や危険因子の管理の推進について多職種で連携を進めるため、益田圏域循環器病対策調整会議や市町担当者会にて検討し、発症予防、基礎疾患の重症化予防に向けた生活習慣病適正管理の対策を継続します。

- ・ しまね高血圧予防キャンペーンに合わせた啓発を行った。(R7.5)
- ・ 益田圏域循環器病担当者会開催し(R8.1)、現状と課題や生活習慣予防・重症化予防の取組について共有した。

②心不全の疾患管理について、施設・在宅における心不全の療養管理について医療介護従事者で目線合わせを行います。

- ・ 圏域で統一した患者管理ツール(心不全シート+心不全手帳)の活用状況を把握した。

4 糖尿病

①益田圏域糖尿病支援ネットワーク会議や市町担当者会における取組を通じて、発症予防や重症化予防、糖尿病の診断・治療・生活指導が適切に実施されるような体制の整備を行います。また、益田圏域糖尿病連携ファイルにより、多職種での連携を進めます。

- ・ 益田圏域糖尿病対策事業担当者会を開催(R7.11.18)。糖尿病性腎症重症化対策を中心に圏域の現状・課題の共有を実施した。
- ・ 益田圏域糖尿病連携ファイルを更新した。医療機関、行政の連携に活用した。

②歯科医師会と連携し、歯周疾患対策を継続して取り組みます。

- ・ 歯周病唾液検査を活用した歯周疾患予防の取組として県立石見高等看護学院の学生を対象とした健康教育を実施した(R8.2.12)。

③地域での重症化予防として、島根県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進を図ります。

- ・ 国保評価委員会や国保・後期高齢者ヘルスサポートに参加(益田市 2 回、津和野町 2 回)、市町とプログラムの対象等について検討した。

④施設利用者の医療的ケアについて医療介護連携を話し合う場での協議を進めていきます。

- ・ 市町や医療・介護関係機関との意見交換や会議の場に参画し、情報提供を行った。

5 精神疾患

①病院と連携したケース検討会において出た地域課題を協議の場での検討や研修会に反映させ、障がい者も暮らしやすい地域づくりを進めます。

- ・ にも包括の現状の共通認識及び支援者間の連携体制の強化を目的とした研修会を実施した(R7.12.16)。
- ・ 精神疾患を抱える身寄りのない高齢者の長期入院化が課題としてあがり、精神障がい者地域生活移行・地域定着支援益田圏域会議にて検討した(R8.2.19)

②「啓発活動の充実を図り、認知症になっても住みよい地域を目指す」「認知症の人や家族の視点を踏まえた取組を推進する」「医療・介護・地域の連携体制の推進を図る」「認知症に関わる者の対応力の向上を目指す」の4つの柱を軸に認知症になっても安心して住める地域づくり支援の推進を目指します。

- ・ 新規認知症サポート医の活動状況や関係機関との連携等の把握を目的に、認知症疾

【益田圏域】

患医療センターと認知症サポート医訪問を実施した。

- ・ 認知症サポート医が講師を担い、認知症の方に関わる医療介護等従事者の対応力向上と顔の見える関係づくり、認知症サポート医と地域のさらなる相互理解を深めることを目的とし益田圏域認知症支援懇話会・認知症サポート医連絡会を合同開催した。
- ・ 認知症の人と家族の会島根県支部主催の世界アルツハマーデーの街頭キャンペーンに参加。住民向けに認知症に関する普及啓発を実施した。
- ・ 認知症対策に関わる機関のネットワークづくりの強化を目的とした益田圏域認知症ネットワーク会議を開催した(R8.2.5)

③心の健康づくりについての啓発、相談窓口の周知に取り組み、早期に必要な医療が受けられるよう地域との連携体制を構築します。

- ・ キャンペーンや啓発週間に併せてポスター掲示等で啓発を行い、相談窓口の周知も併せて実施した。

6 救急医療

①現状の救急医療体制の維持充実に努め、各市町や住民団体等と連携し、コンビニ受診、時間外受診を控える啓発を継続します。また、各市町の電話相談事業の周知を継続します。

- ・ 管内3市町、3市町ごとにある医療を守る会(住民組織)等で、コンビニ受診や適切な救急車利用についての啓発を重ねた。

②二次救急、三次救急については、医療機関連携を促進し、医療機能の水準の維持充実に努めます。また、救命率の向上や後遺症の軽減を図るために、ドクターヘリを活用し、県内の医療機関、消防機関等との緊密な連携により、効果的な運航体制の維持を図ります。

- ・ 関係機関との情報共有を適宜行い、現状把握に努めた。

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

① 災害拠点病院である益田赤十字病院と平常時から情報交換を行い、連携を図ります。

- ・ 益田赤十字病院が実施する院内災害訓練(R7.9.27)に参加し、災害時の連携について情報交換を行った。
- ・ 圏域における医療救護体制の構築に向けて、益田赤十字病院の医師(DMAT 隊員)や看護師、事務職員等と意見交換を行い、専門的な助言を受けた。

【益田圏域】

②平時より、災害医療関係機関の情報共有、連携強化を図るため、益田地域災害医療保健福祉会議等を開催します。

- ・ 平時でも毎年開催しており、今年度の会議(R7.7.3)では、発災直後から急性期における医療救護体制の構築について意見交換した。医療救護に係るワーキンググループの設置について承認を得た。
- ・ 医療救護に係るワーキンググループを令和7年11月より始動した。今後は、緊急医療救護所の設置に向けた協議を継続していく方針。

② 県庁等と連携し、原子力災害に関する情報提供を行います。

- ・ 県の原子力研修の情報提供等、連携を図った。

8 感染症に対する医療〔感染症予防計画〕

①新型コロナウイルス対応の経験を活かし、様々な感染症に対応できる施設内療養のあり方を、医療・介護関係者と検討しあい、必要な情報提供に努めます。

- ・ 8月上旬に新型コロナウイルス感染症患者が増加した。そのため益田圏域の全国老人福祉施設協議会の会長に対し、昨年度作成した高齢者福祉施設等で新型コロナウイルス感染症を発症した患者の入院相談の目安について、再度高齢者福祉施設に向けて周知啓発を依頼し、情報共有を図った。

②圏域の医療保健介護の関係機関と定期的な感染症に関する意見交換会・研修会を開催し、目線合わせを行います。

- ・ 益田圏域内で行われた合同カンファレンスに参加し、麻しんを題材にした圏域内での患者発生時の初動対応訓練にて、ファシリテーターとして訓練のまとめ役を担った。
- ・ 冬場に流行するインフルエンザやノロウイルス感染症についての研修会を高齢者福祉施設に向けて行った。

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①地域医療を支えるために、島根大学をはじめとする大学医学部、医療機関、群市医師会、市町、県、地域住民と連携し、地域医療の現状を課題に即した取組を進めます。

- ・ 保健医療対策会議、各市町医療介護連携会議等で、地域医療の現状・課題の共有と、好事例の共有を重ねている。

【益田圏域】

②巡回診療、へき地診療所への医師派遣等、地域医療拠点病院が実施している医療活動の充実に向けて、施設整備や人材育成等に対し、支援します。

- ・ 5 病院連携協定の中で、医師派遣・教育の連携を意識して取り組んだ。保健所としても主旨を理解し、人材育成等支援した。

③医療従事者が安心して充実した勤務ができるような勤務環境整備や、医師の働き方改革に関する啓発を、関係機関や住民団体と連携して取り組みます。

- ・ 3 市町、3 市町の医療を守る市民の会(住民組織)へ、勤務環境整備や医師の働き方改革等の情報提供を実施し、協力を求めた。

④遠隔診療や、医療情報ネットワークの活用について、益田地域保健医療対策会議や各市町の医療介護連携事業等で検討します。

- ・ 遠隔診療や医療情報ネットワークの活用については、今年度の益田地域保健医療対策会議(R8. 3.19)において、主なテーマの1つとして意見交換を行う予定。
- ・ 各市町の医療介護連携会議においても検討しており、適宜、情報提供を行った。

10 周産期医療

①引き続き、地域周産期母子保健医療連絡会において、益田圏域の現状や課題の検討を行い、分娩医療機関と行政の連携を図ります。

- ・ 益田赤十字病院(地域周産期母子医療センター)主催で益田圏域周産期母子保健医療連絡会を開催した(6/10、1/30)。

②地域周産期母子医療センターと地域の開業助産院との連携の充実を図ります。

- ・ 随時、状況把握等に努めた。

11 小児救急を含む小児医療

①益田赤十字病院において入院医療に対応できる小児救急医療体制整備の確保に努めます。

- ・ 個別の関りから、緊急時の受け入れ等について検討を行った。

②島根県医療的ケア児支援センターのコーディネーターや関係機関と連携を図ります。

- ・ センターや関係機関と連携し、医療的ケア児のライフステージに沿った支援や災害対

【益田圏域】

策を推進した。

- ・ 地域における医療的ケア児支援の充実に向け、機運の醸成を目的とした研修会を実施した(R8.1.29)。

③病院総合診療医や、内科開業医の協力も得ながら、小児医療を維持します。

- ・ 総合診療医の協力を得ながら、医療的ケア児の医療提供体制の協議を行った。

12 在宅医療

① 訪問看護ステーション協会と連携を密にし、現状把握や共同した研修会を企画実施します。

- ・ 訪問看護ステーション協会益田支部会に参加し、現状把握や意見交換を実施した。

②高齢者の慢性疾患(心不全・腎不全等)や生活習慣病の管理について、医療介護関係者と支援のあり方(意思決定支援等)について検討します。

- ・ 高齢者の慢性疾患や生活習慣病の管理については、特に在宅復帰後の生活習慣に課題があることを共有している。疾病管理のための共通ツールの活用について、今後とも検討する。
- ・ ACPを真剣に考えようの会の参加団体の職員を対象に、アンケートを実施した。また意見交換会を今年度も開催した。(R8.2.3)

③市町の医療・介護連携事業、地域支援事業と連携し、住み慣れた地域で最期まで過ごせる地域づくり(地域包括ケアシステム)の構築を図ります。

- ・ 市町や医療・介護関係機関との意見交換や会議の場に参画し、地域包括ケアシステムの現状と課題の把握を行い、体制づくりの検討を行った。

④元気なうちから、本人家族と終末期について話し合っておくACPの啓発を継続します。

- ・ 各市町や医療機関等と連携して、共通ツールである思いをつなげるシート等も活用しながら、圏域における住民啓発の推進を行った。
- ・ 高齢者施設入居者の家族向けにACPの出前講座を行った。

隠岐圏域

1 がん

①がんに関する正しい知識や検診の重要性の普及啓発を行い、がん検診受診率の向上や検診の充実に努めます。

- ・ がん征圧月間及び受診率向上月間、各種イベント、事業所検診連絡会にて、がん検診の重要性等について啓発した。
- ・ がん検診チェックリストを用いて町村担当者と望ましいがん検診体制や精度管理について検討した。
- ・ がんサロン隠岐たんぽぽ主催の民謡公演会にて、がん検診啓発等の媒体を配布し、啓発を行った。

②健康長寿しまね推進会議等を中心に、がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等の改善を推進します。特に喫煙に関しては、町村や関係機関と連携し、啓発や環境づくりに取り組みます。

- ・ 隠岐圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・喫煙・アルコール等生活習慣について事業所へチラシの配布やスーパーマーケット、図書館等にて街頭キャンペーンによる啓発を行った。
- ・ 中学校の喫煙防止教室にて、受動喫煙を含む喫煙の危険性について啓発した。
- ・ 西ノ島町の健康づくり推進協議会と協力し、保育園・児童クラブの保護者や高校生を対象に喫煙・飲酒の影響を啓発した。
- ・ 世界禁煙デーに合わせて喫煙可能室、喫煙目的施設等を設置している飲食店等に対し改正健康増進法施行後の実態調査と受動喫煙防止に関する啓発を行った。

③隠岐圏域の病院で、内視鏡による検査・治療が継続して実施できるよう技術の確保と体制の整備を図ります。また、本土医療機関との連携をさらに強化し、隠岐圏域でがん治療が継続できる体制を整備します。

- ・ がん検診チェックリストのヒアリングにあわせ、各町村に内視鏡検査の状況を把握した。

④医療従事者及び介護関係者の人材確保及び研修会を行い、病院の地域連携部門やケアマネジャー、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等と連携し、がん患者が安心して地域移行できる体制整備を図ります。また、がん患者の社会参加、生活の質の向上を推進します。

- ・ がんサロンへ参加し、情報提供やサロン同士のつながりなど、サロン活動が柔軟に実施

できるよう支援を行った。

- ・ がん治療から在宅での療養生活を支える関係機関である病院、診療所、訪問看護、居宅介護支援専門員に対して、緩和ケアに関するヒアリングを実施した。(R7.12～R8.1)

2 脳卒中

①脳卒中の発症予防のため、生活習慣改善に向けた健康づくり活動やセルフチェックの推進、疾病の適正管理や、重症化防止のための取組を強化していきます。

- ・ 隠岐圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・喫煙・アルコール等生活習慣について啓発した。
- ・ 「日本高血圧の日」に併せ、しまね☆まめなカンパニーに登録している事業所へ脳卒中に関するチラシを配布した。
- ・ 圏域の健康課題である「多量飲酒」を改善するため、アルコール対策を推進。圏域独自の AUDIT 啓発チラシを配布した。
- ・ 事業所訪問時に、事業所に向けて情報提供やチラシでの啓発を行った。

②特定健康診査や特定保健指導の受診率向上に向けた取組を推進します。

- ・ 町村と受診率向上に向けての効果的な啓発などについて意見交換などを実施した。
- ・ 事業所健診連絡会にて圏域の健康課題等について情報提供を行った。

③住民に対し、初期症状の自覚後速やかに受診するよう啓発するとともに、脳卒中発症後の早期診断・治療、さらには発症者の療養について、保健・医療・福祉が連携し支援ができる体制整備を図ります。

- ・ 隠岐圏域生活習慣病担当者会議を開催(R8.1.15)し、各町村における保健医療の連携状況等を把握した。
- ・ 脳卒中発症者状況調査にあわせ、医療機関へ循環器疾患(脳卒中・心不全)についてのヒアリングを行い圏域の状況把握を行った。

3 心筋梗塞等の心血管疾患

①虚血性心疾患の発症予防のため、塩分の過剰摂取、喫煙といった生活習慣を改善するための健康づくり活動を引き続き推進します。

- ・ 隠岐圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・喫煙についての啓発を行

【隠岐圏域】

った。

- ・ 事業所訪問時に、事業所に向けて情報提供やチラシでの啓発を行った。

②島根県保険者協議会と連携し、特定健康診査の受診率向上や特定保健指導の実施率向上を目指した取組を推進します。

- ・ 町村と受診率向上に向けての効果的な啓発などについて意見交換などを実施した。
- ・ 事業所健診連絡会にて圏域の健康課題等について情報提供を行った。

③急性期医療を担う医療機関と、合併症予防や再発予防、在宅復帰のための心臓リハビリテーションを実施する医療機関との連携の推進及び、多職種多機関が連携した在宅療養が可能な体制の構築に努めます。

- ・ 隠岐圏域生活習慣病担当者会議を開催(R8.1.15)し、各町村における保健医療の連携状況等を把握した。
- ・ 隠岐の島町主催の心不全研修会(在宅介護・医療連携推進事業)に多職種が参加し重症化予防等について対策を検討した。
- ・ 脳卒中発症者状況調査にあわせ、医療機関へ循環器疾患(脳卒中・心不全)についてのヒアリングを行い圏域の状況把握を行った。

4 糖尿病

①健康長寿しまねの推進等を中心に、食生活や運動等の生活習慣の改善等、地域を基盤とした健康づくり活動をさらに推進します。

- ・ 隠岐圏域健康長寿しまね推進会議構成団体等と連携し、食生活・栄養や身体活動について啓発した。
- ・ 世界糖尿病デーを含む11月の糖尿病月間に、適切な生活習慣について、隠岐病院、隠岐の島町それぞれで啓発を行った。

②特定健康診査受診率向上のための取組や、精密検査未受診者への受診勧奨の取組を進めます。

- ・ 働き盛りの健康づくりセミナーや事業所訪問にて、精密検査の受診勧奨を進める必要性等を説明し、事業所内での取組を促した。

③関係者と連携し、医療機関未受診者や治療中断者を含むハイリスク者への対策など、合併症予防や糖尿病性腎症を含む慢性腎臓病(CKD)重症化予防対策を進めます。

- ・ 隠岐圏域生活習慣病担当者会議を開催(R8.1.15)し、各町村の取組状況や課題を

【隠岐圏域】

共有した。

- ・ 隠岐病院、隠岐島前病院へヒアリングを行い、隠岐圏域の糖尿病患者の現状や病院が抱える課題について共有することができた。
- ・ 世界糖尿病デー、糖尿病月間に合わせ、隠岐合同庁舎及び島前集合庁舎内に糖尿病の重症化予防について掲示物を設置し、啓発を行った。

④各町村の実情に応じ、多職種連携による糖尿病の予防・管理体制等の構築を進めます。

- ・ 隠岐圏域生活習慣病担当者会議を開催(R8.1.15)し、各町村における保健医療の連携状況等を把握した。
- ・ 隠岐の島町糖尿病対策委員会で、保健・医療・福祉スタッフ向けのセミナー(テーマ:患者との対話でつくるコーチングを活かした行動変容)を開催し、関係者のスキルアップの機会を確保できた。

5 精神疾患

①適切な医療を隠岐圏域内で提供するため、精神保健指定医の確保、隠岐病院の精神科病床の維持、島前地域の精神科外来の継続に努めます。また、緊急に精神科医療が必要な方に対し、迅速かつ適切に対応できるよう、引き続き関係機関との連携強化を図ります。

- ・ 隠岐圏域精神科救急医療体制整備連絡調整会議を開催(R8.3.5)し、精神科救急医療体制について検討した。
- ・ 町村ごとに精神科療養支援チーム会議を開催し、関係機関と連携して管内精神科通院者の症状悪化防止を図った。

②精神障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを推進します。特に、入院から地域生活へという考え方にに基づき、関係機関と連携した退院支援や、退院後の地域生活について保健・医療・福祉関係者、ボランティア等と連携した生活支援に努めます。

- ・ 隠岐圏域精神障がい者地域生活移行・地域定着支援会議を開催(R8.1.16)し、退院支援や安定した地域生活への支援における連携体制について検討した。
- ・ 本土の精神科医療機関を訪問し、隠岐圏域からの長期入院患者の状況把握、隠岐圏域の地域資源の情報提供、入退院調整における意見交換を実施した。
- ・ 町村の自立支援協議会・地域ケア会議等に参加し、町村の具体的な取り組みに向けた支援を継続した。

【隠岐圏域】

③アルコール健康障がい予防・早期発見・重症化予防のために、保健・医療・福祉で連携して切れ目のない支援体制の整備を図ります。

- ・ 健康長寿しまね推進事業や事業所訪問等での健康に配慮した飲酒等についての啓発や、学校と連携した未成年者飲酒防止のための出前講座を行った。
- ・ 「お酒の困りごと相談」の実施。
- ・ 医療・保健・福祉関係機関が連携しアルコール健康障がいに対する取組を進めていくため、隠岐圏域アルコール健康障がい対策連絡会を開催する。(R8.2月頃)

④認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、保健・医療・福祉が連携し、総合的な支援体制の構築を図ります。また、認知症予防の視点を持ち「認知症になるのを遅らせる」、「認知症になっても進行を緩やかにする」ための取組を推進します。

- ・ 隠岐圏域認知症疾患医療連携協議会を開催し、圏域内の保健・医療・福祉関係者と情報共有をし、各関係機関での取組や今後の認知症対策の推進について検討した。
- ・ 認知症の三次予防の取組として、圏域内の保健・医療・福祉関係者を対象に隠岐圏域認知症対応力向上研修会を開催し、関係者の資質向上を図った。

6 救急医療

①初期救急について引き続き、在宅当番医制や救急告示病院の救急外来などの体制がとられるよう、協力を促します。

- ・ 引き続き在宅当番医制度・救急外来などの体制がとられるよう協力を促した。

②今後もヘリコプター等による救急搬送により、地域の医療提供体制の補完を図ります。

- ・ 県主催の連絡会等に参画し、関係機関と連携を深め搬送体制の確認を行った。

③担い手不足については、圏域内外の他の関係機関とも連携し、働きやすい環境を整えるなど就業環境の整備に取り組みます。また、医療機関の適正受診に関する住民の理解を深め、地域医療を守る意識を高めるよう、取組を進めます。

- ・ 年2回発行の保健所広報誌や病院のイベント等により適正受診に関する住民への啓発を行った。

7 災害医療(災害時公衆衛生活動を含む)

①災害時には、福祉部門を含む関係機関との情報共有を行い、住民のニーズへの迅速な対応に努めます。また、災害時には保健所に設置する地域調整本部が実践的な医療救護活動を行うことができるよう、緊密な情報連携に努めます。

- ・ 隠岐地域災害保健医療福祉対策会議を開催し、対策会議及び調整本部の役割を踏まえ、情報連携のあり方について確認した。
- ・ 隠岐地区災害対策本部防災訓練に併せて、所内訓練を実施し、初動対応について確認した。
- ・ 保健所の災害時初動対応を整理したアクションカードの見直しを行った。

②平時より、災害医療関係機関の情報共有による連携強化を図るため、島前・島後にそれぞれ「隠岐地域災害保健医療福祉対策会議」を設置し、災害時の速やかな体制整備に努めます。

- ・ 隠岐地域災害保健医療福祉対策会議(R5.12.5 隠岐地域に一本化)を開催し、災害時の速やかな体制整備について確認した。

8 感染症に対する医療[感染症予防計画]

①今後、新たな感染症が発生した際の医療提供体制の確保については、感染症法に定める新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新興感染症への対応を基本としますが、これまでの対応の教訓を生かすことができる新型コロナウイルス感染症への対応を念頭に医療機関と連携して取り組むこととします。

- ・ 平時から、感染症の流行状況や患者の受診状況等の情報共有を行い、円滑な連携が図れるよう努めた。
- ・ 医療機関の感染管理認定看護師とともに高齢者施設の訪問を行い、随時課題を共有した。
- ・ 高齢者施設職員等を対象として結核・呼吸器感染症対策研修会を開催し、役割分担の整理や患者発生時の対応力向上を図った。
- ・ 麻しん及び食中毒発生時の対応について研修を行い、所内体制の整備を図った。

【隠岐圏域】

②本土の入院医療機関への患者移送や島外者が在島中に感染した場合の療養施設の確保について、関係者間の役割分担を整理し、民間業者等との協定締結・業務委託等に備えます。また、平時から関係機関との連携を密にし、新興感染症等の発生時には、協働して対応することとします。

- ・ 患者移送用のアイソレータの保守点検を行った。
- ・ 高齢者施設職員等を対象として結核・呼吸器感染症対策研修会を開催し、役割分担の整理や患者発生時の対応力向上を図った。
- ・ 学校と連携して感染症の出前講座(研修会)を開催し、生徒及び教職員に対して感染症の基礎知識や集団生活での感染症対策について啓発を行った。

③感染症法に基づき策定する予防計画や新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき策定する行動計画と整合を図ります。

- ・ 医療機関、学校、社会福祉施設及び町村等と感染症の流行状況について情報共有を行い、感染症拡大防止のための連携を図った。

9 地域医療(医師確保等によるへき地医療の体制確保)

①担い手不足については、圏域内外の他の関係機関とも連携し、働きやすい環境を整えるなど就業環境の整備に取り組みます。また、医療機関の適正受診に関する住民の理解を深め、地域医療を守る意識を高めるよう、取組を進めます。

- ・ 島根県地域医療支援会議において医師派遣要望による医療体制確保に努めた。
- ・ 年2回発行の保健所広報誌や病院のイベント等で適正受診の住民啓発を実施。

②移動困難な患者の通院等のため、オンライン診療の手法について検討します。

- ・ 隠岐病院及び海士診療所において、島根大学病院との間で「特定医療費(指定難病)受給者証」を持っている又はこうした疾患の疑いがある方についてオンライン診療を実施する体制を整備した。
- ・ 隠岐病院では、飛行機あるいは船舶が急きょ欠航した場合、皮膚科、泌尿器科、神経内科等でオンライン診療を行った。

③限られた医療資源を効率的、効果的に活用できるよう、医療施設の機能の分担・連携を強化し、適切な医療を提供できる体制を維持・確保に努めます。

- ・ 適切な医療を提供できる体制を維持・確保し、関係機関間での連携・促進を図るために、隠岐地域保健医療対策会議在宅医療部会(R7.11.27)及び隠岐地域保健医療対策会議(全体会:R8.3.17 予定)を開催。

【隠岐圏域】

④管内町村は無医地区から医療機関への通院手段の確保に努めます。

- ・ 隠岐の島町は、通院時間に合わせた路線バス等の運行や病院前停留所の設置、また高齢者や障がい者への移動支援を目的としたタクシー利用助成を行った。
- ・ 西ノ島町は、80歳以上の高齢者に高齢者福祉バス優待券(町営バスが無料)を交付した。

10 周産期医療

①隠岐病院での院内分娩、隠岐島前病院での妊産婦健診が継続できるよう医療従事者確保等体制整備していく必要があります。

- ・ 医療機関と周産期医療の医療従事者確保について協議し、医療機関と連携し取り組んでいくことを確認した。

②隠岐圏域内の連携強化・課題解決を図るため、引き続き「隠岐圏域周産期医療検討会」を開催します。また、「松江圏域周産期医療連絡協議会」等に参加し、隠岐病院・隠岐島前病院と本土側出産対応医療機関との連携を強化します。

- ・ 松江圏域周産期医療連絡協議会へ参画し、意見交換等を通じて課題等を把握した。また、隠岐圏域の周産期医療提供体制について、同協議会内で説明し、本土側出産対応医療機関との連携の必要性について確認した。
- ・ 隠岐圏域の周産期医療の現状・課題について共有するために隠岐圏域周産期医療検討会(隠岐圏域母子保健推進協議会と兼ねる)を開催した。(R8.2.4)

③妊婦健診の定期受診や産婦健診の受診を勧め、関係機関での情報共有を密にして安全な出産・育児につながるよう支援体制を図っていきます。

- ・ 隠岐圏域母子保健推進協議会を開催(R8.2.4)し、妊婦健診の受診状況と妊産婦の健康管理について把握し、各関係機関における支援について検討した。
- ・ 隠岐圏域母子保健推進協議会において、子育てに支援が必要な親への対応について各関係機関と共有し、連携促進を図った。(R8.2.4)

11 小児救急を含む小児医療

① 隠岐病院及び隠岐島前病院で小児に対する診療体制の確保に努めます。

- ・ 引き続き診療体制の確保に努めた。

【隠岐圏域】

- ② 保護者や保育関係者への「子ども医療電話相談（#8000）事業」等の認知度の向上を図ります。

- ・ 年2回発行の保健所広報誌や病院のイベント等により適正受診に関する住民への啓発を行った。

12 在宅医療

- ①「隠岐地域保健医療対策会議在宅医療部会」において、在宅医療及び介護サービス体制の充実に向けて検討を進めます。

- ・ 上記会議を開催し、関係機関における取組と課題について共有した。

- ②入院医療機関と在宅での療養支援に関わる機関が協働し、入退院連携を強化します。

- ・ 隠岐の島町入退院連携ワーキングを開催し、関係機関と事業進捗状況を確認しながら課題の共有や対策の検討を行った。
- ・ 隠岐圏域（隠岐の島町）入退院連携ガイドラインの作成を進めた。

- ③ ACP の理解に向けた啓発を各町村の実情に応じて進めます。

- ・ 隠岐地域保健医療対策会議在宅医療部会において、ACP の普及啓発に向けた意見交換を行い、現状・課題を共有した。
- ・ がんサロン隠岐たんぽぽ主催の民謡公演会、隠岐まめなかの祭りにて、ACP のマンガ、クリアファイルを配布し、啓発を行った。

- ④安心して在宅で療養できるよう病診連携・医科歯科連携を図りながら、訪問診療体制の検討及び在宅療養を支える関係者の人材確保及び連携強化により、在宅療養の支援体制づくりを推進します。

- ・ 隠岐地域保健医療対策会議在宅医療部会において、病診連携、医科歯科連携及び在宅療養支援体制づくりについて意見交換し、取組や課題について共有した。